

## 2-4 第2号被保険者調査

### (1) ご本人について

#### ①調査票の記入者

<図表237> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
540	487	20	-	33

#### ②現在の状況

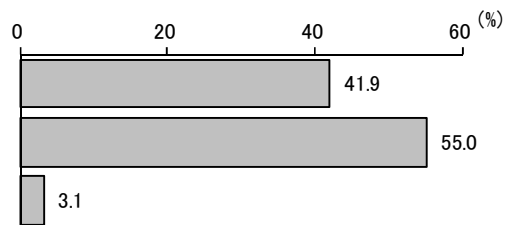
<図表238> 現在の状況（本人の不在の事情）

調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	左記に該 当しない
540	-	-	1	-	1	538

#### ③性別

<図表239> 性別

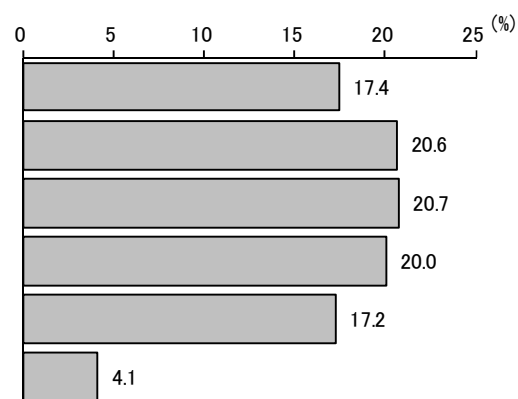
	基数	構成比
男性	226	41.9%
女性	297	55.0%
無回答	17	3.1%



④年齢

<図表240> 年齢

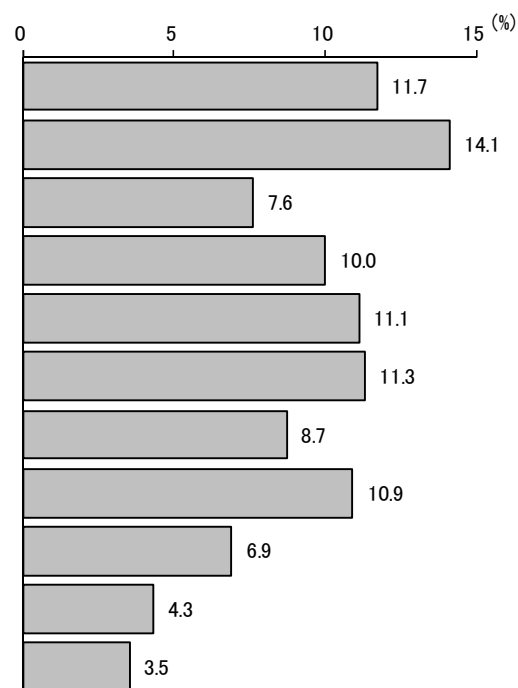
	基数	構成比
40歳～44歳	94	17.4%
45歳～49歳	111	20.6%
50歳～54歳	112	20.7%
55歳～59歳	108	20.0%
60歳～64歳	93	17.2%
無回答	22	4.1%



⑤お住まいの地区

<図表241> お住まいの地区

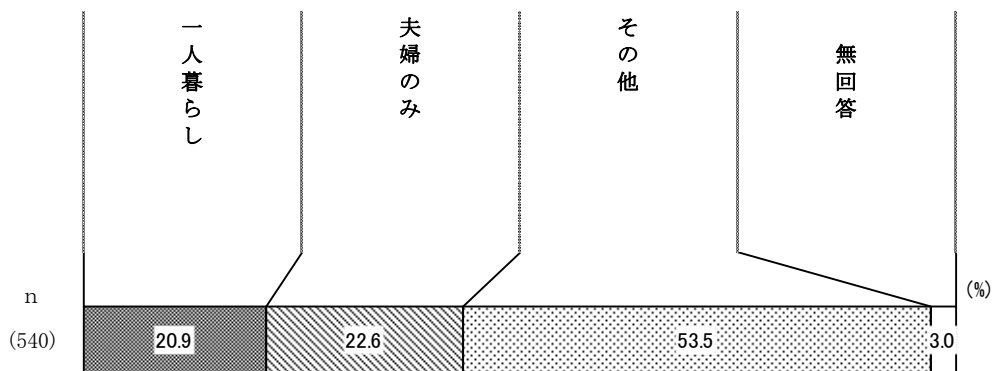
	基数	構成比
四谷	63	11.7%
竈笥町	76	14.1%
榎町	41	7.6%
若松町	54	10.0%
大久保	60	11.1%
戸塚	61	11.3%
落合第一	47	8.7%
落合第二	59	10.9%
柏木	37	6.9%
角筈	23	4.3%
無回答	19	3.5%



⑥世帯構成

問4 あなたの世帯の構成をお選びください。(1つに○)

<図表242> 世帯構成

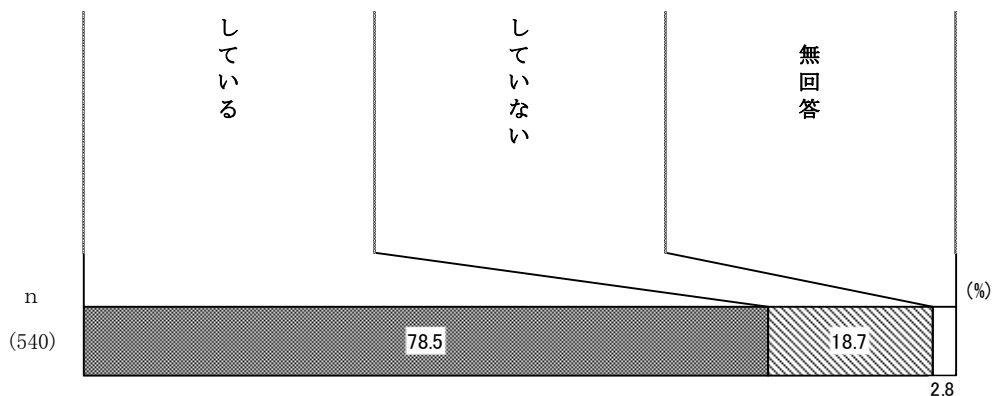


世帯構成についてたずねたところ、「夫婦のみ」(22.6%)が2割強、「一人暮らし」(20.9%)が約2割となっている。

⑦就業状況

問5 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表243> 就業状況

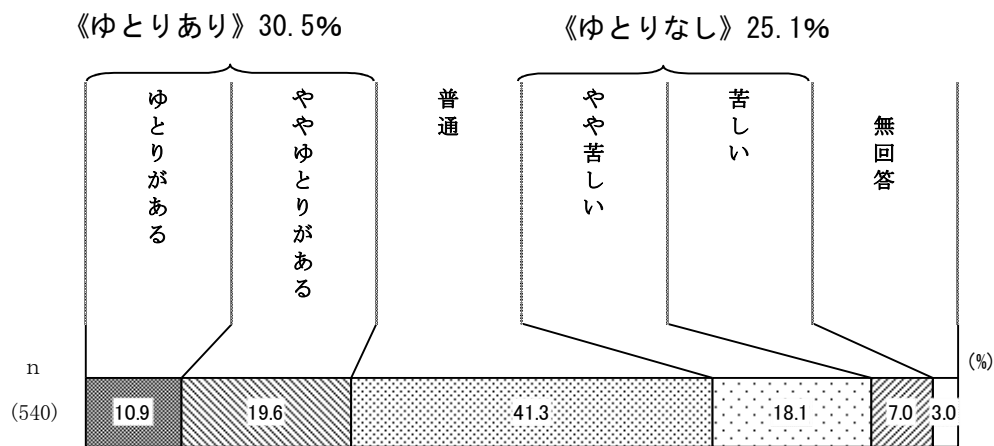


就業状況についてたずねたところ、収入のある仕事を「している」(78.5%)は8割近く、「していない」(18.7%)は2割近くとなっている。

⑧現在の暮らし向き

問6 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表244> 現在の暮らし向き

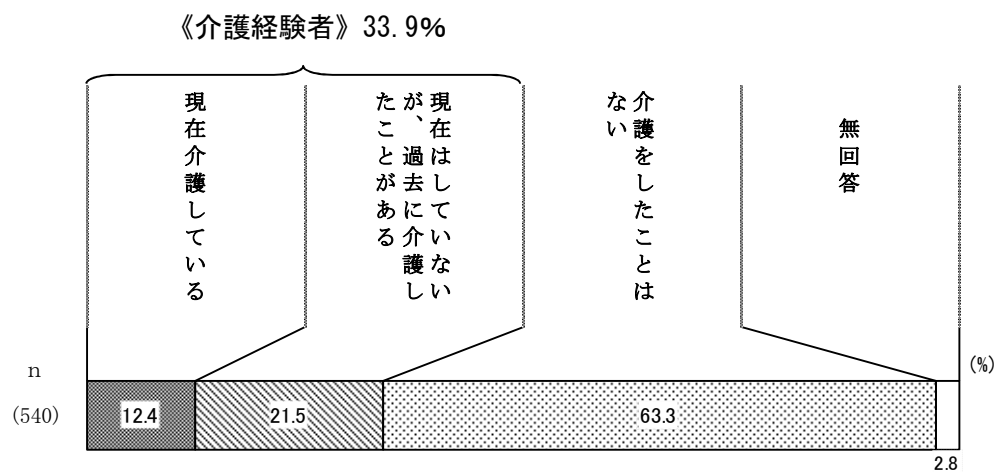


現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ゆとりがある」(10.9%)と「ややゆとりがある」(19.6%)をあわせた《ゆとりあり》は30.5%となっている。

⑨家族等の高齢者の介護の経験

問7 あなたは、ご家族等の高齢者の介護をしたことがありますか。(1つに○)

<図表245> 家族等の高齢者の介護の経験



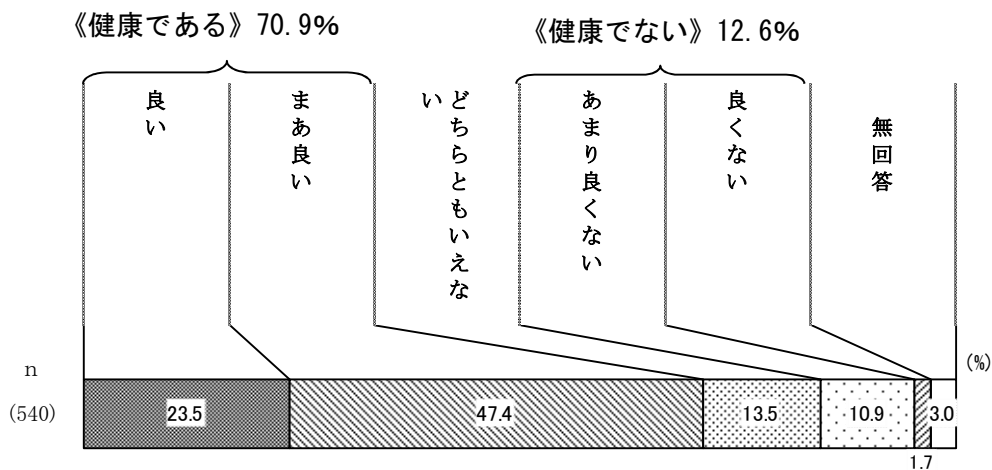
家族等の高齢者の介護経験についてたずねたところ、「介護をしたことはない」(63.3%)が6割台半ば近くと最も高く、「現在介護している」(12.4%)と「現在はしていないが、過去に介護したことがある」(21.5%)をあわせた《介護経験者》は33.9%となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問8 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

<図表246> 健康状態

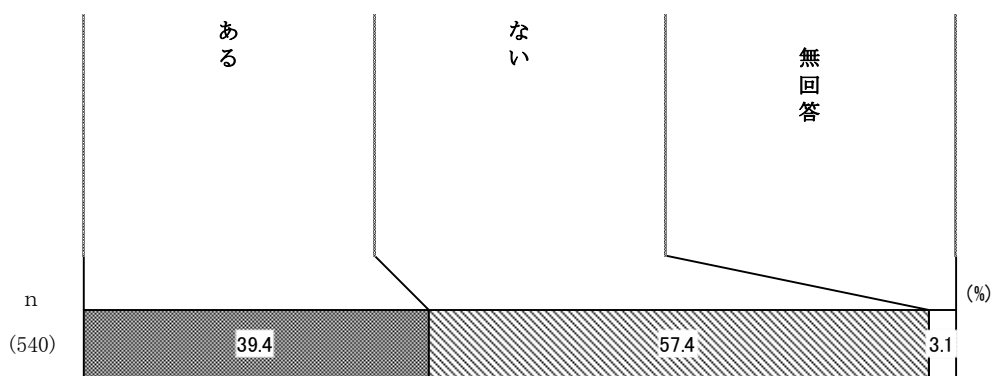


自身の健康状態についてたずねたところ、「良い」(23.5%)と「まあ良い」(47.4%)をあわせた《健康である》は70.9%となっている。

②治療中の病気の有無

問9 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表247> 治療中の病気の有無



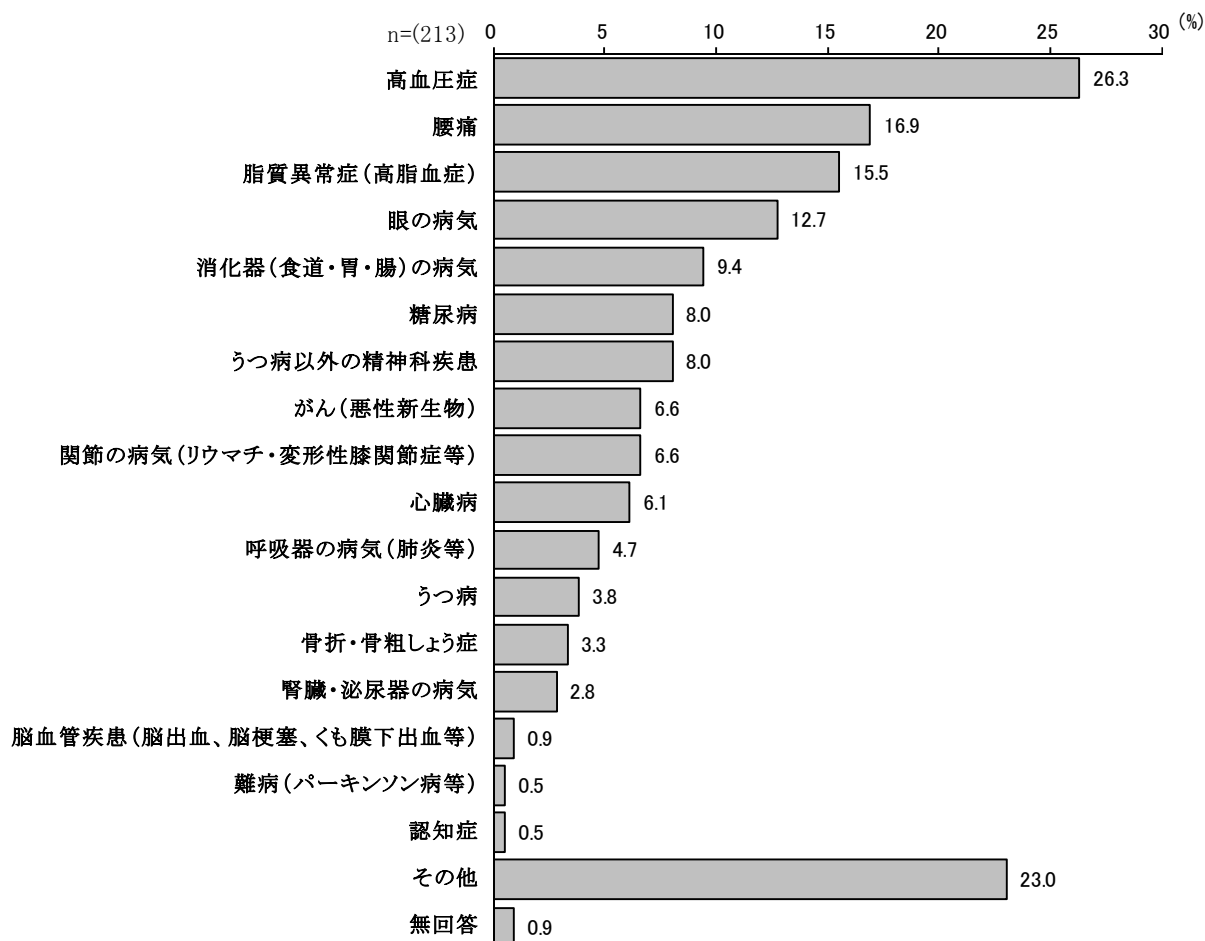
現在治療中の病気の有無についてたずねたところ、「ある」(39.4%)が4割弱となっている。

## ③治療中の病気の種類

問9-1 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>

治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表248> 治療中の病気の種類 (複数回答)



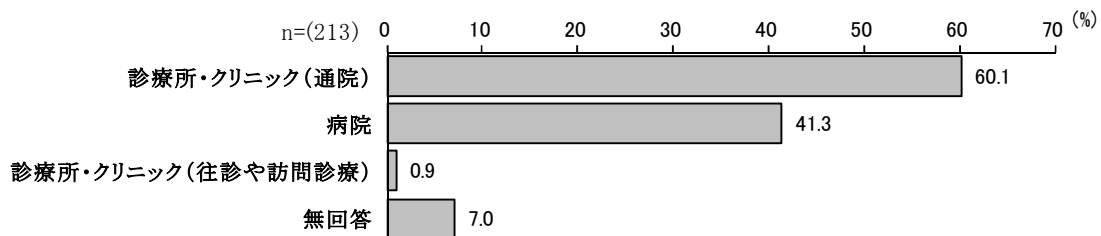
問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(26.3%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「腰痛」(16.9%)、「脂質異常症(高脂血症)」(15.5%)の順となっている。「その他」では、甲状腺の病気、痛風、関節痛といった内容があげられた。

④受診している医療機関

問9-2 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>

受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表249> 受診している医療機関 (複数回答)

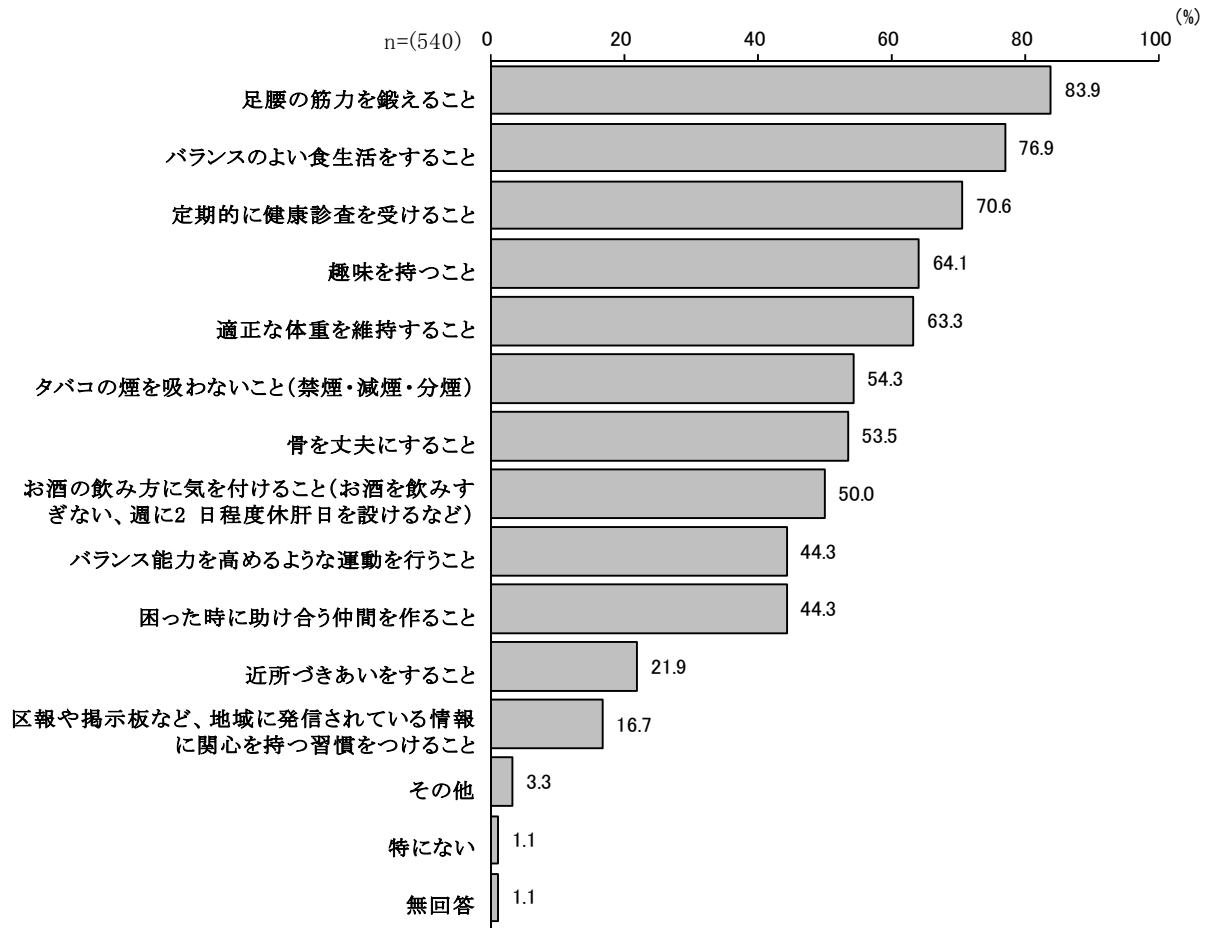


問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(60.1%)が約6割で最も高く、次いで、「病院」(41.3%)の順となっている。

⑤40代から取り組んだほうがよいこと

問10 いきいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表250> 40代から取り組んだほうがよいこと (複数回答)



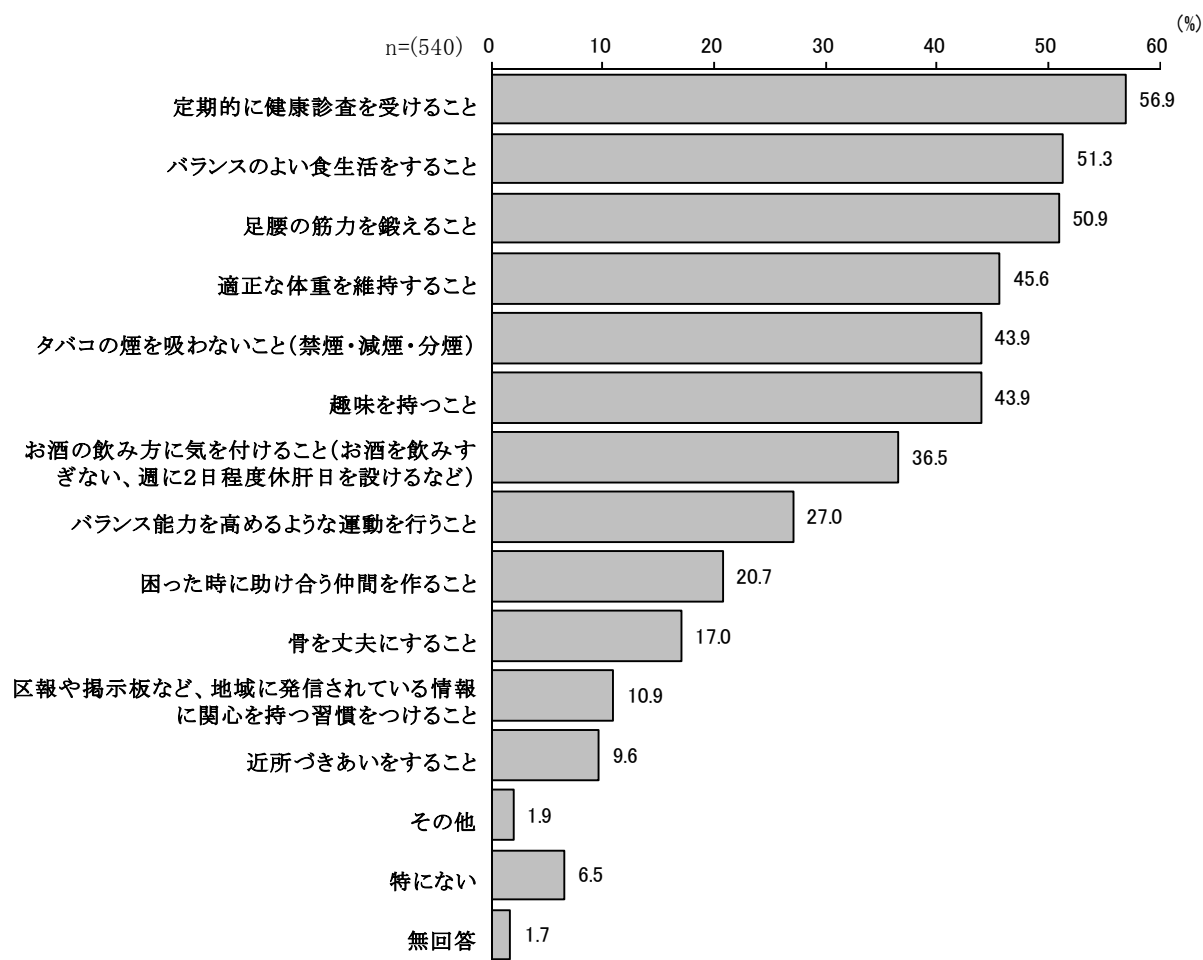
40代から取り組んだほうがよいことについてたずねたところ、「足腰の筋力を鍛えること」(83.9%)が8割半ば近くで最も高く、次いで、「バランスのよい食生活をする」(76.9%)、「定期的に健康診査を受けること」(70.6%)の順となっている。



⑥現在、実践していること

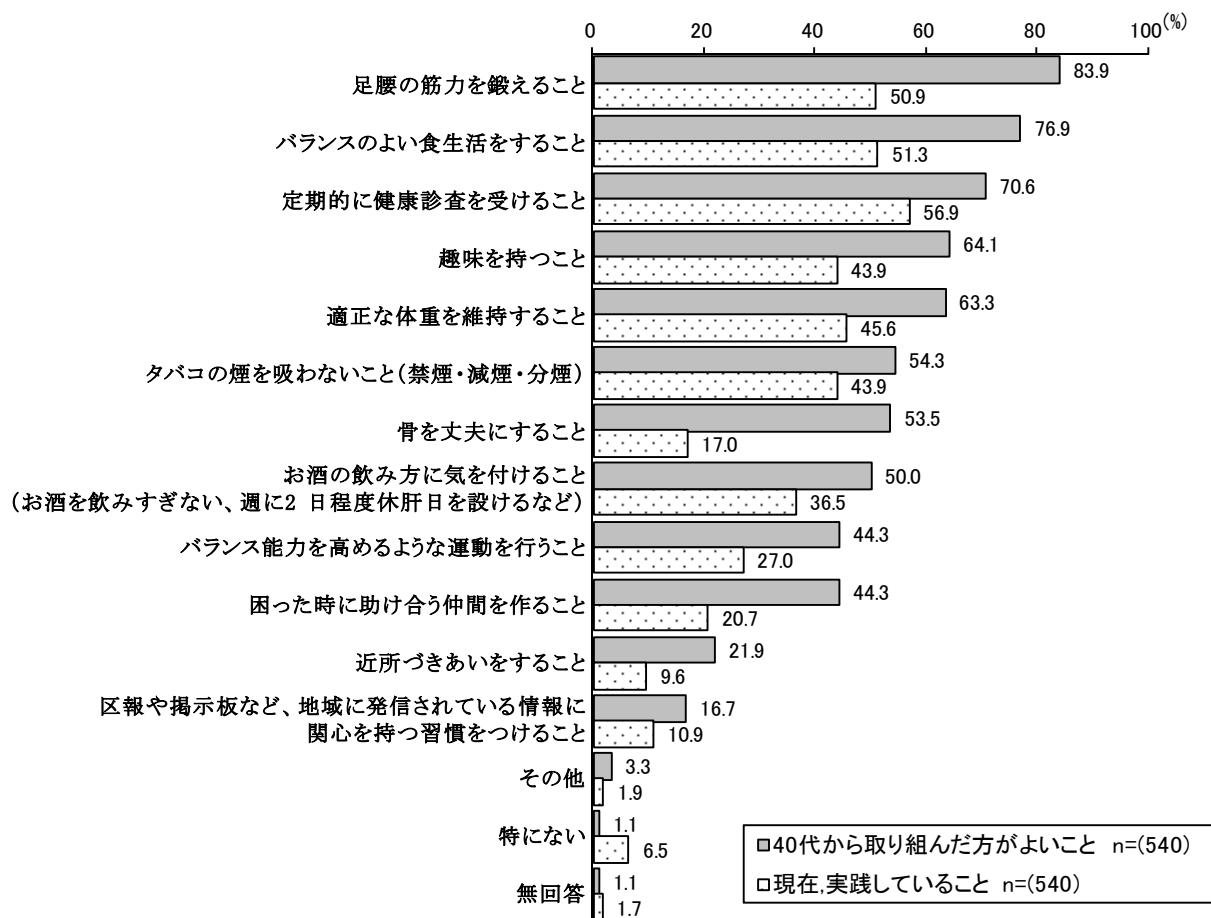
問11 あなたが現在、実践していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表251> 現在、実践していること (複数回答)



現在、実践していることについてたずねたところ、「定期的健康診断を受けること」(56.9%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「バランスのよい食生活をする」(51.3%)、「足腰の筋力を鍛えること」(50.9%)の順となっている。

<図表252> 40代から取り組んだほうがよいこと（問10）と現在、実践していることとの差異（複数回答）

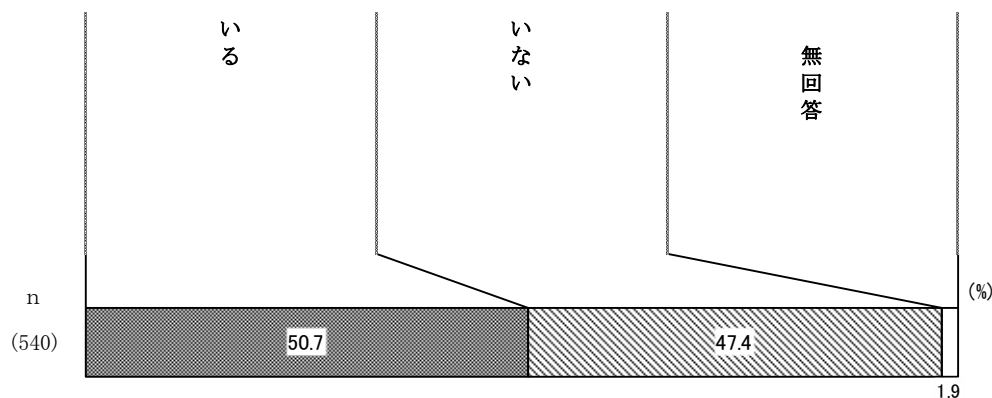


40代から取り組んだほうがよいことと現在、実践していることを比較すると、差異の大きな取り組みは、「骨を丈夫にすること」(36.5ポイント差)、「足腰の筋力を鍛えること」(33.0ポイント差)、「バランスのよい食生活をする」(25.6ポイント差)の順となっている。

⑦かかりつけ医の有無

問12 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表253> かかりつけ医の有無

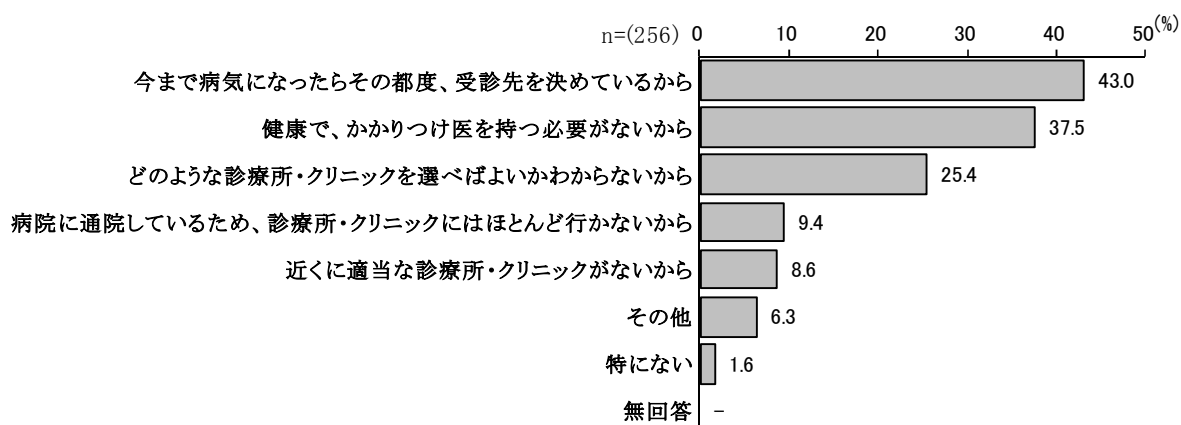


かかりつけ医の有無についてたずねたところ、「いる」(50.7%)は約5割となっている。

⑧かかりつけ医がない理由

問12-1 <<問12で「いない」を選んだ方のみお答えください>>  
 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表254> かかりつけ医がない理由(複数回答)



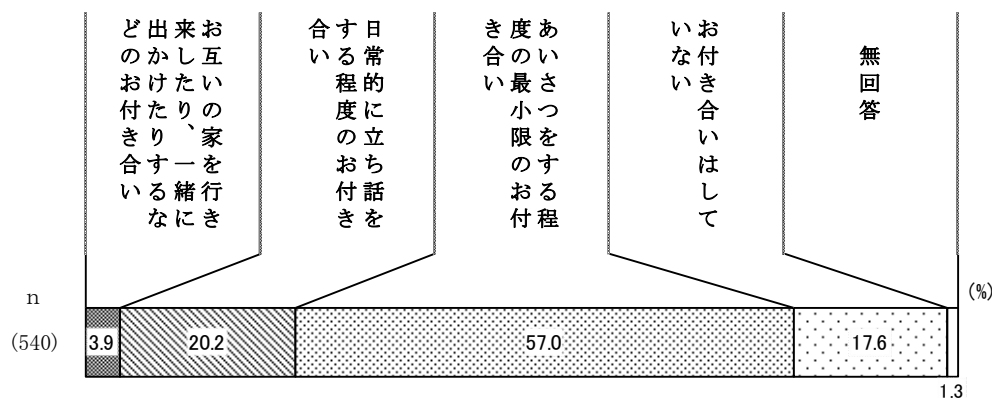
問12でかかりつけ医が「いない」と回答した人に、かかりつけ医がない理由についてたずねたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(43.0%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」(37.5%)、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」(25.4%)の順となっている。

(3) 日ごろの生活について

① ご近所付き合い

問13 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表255> ご近所付き合い

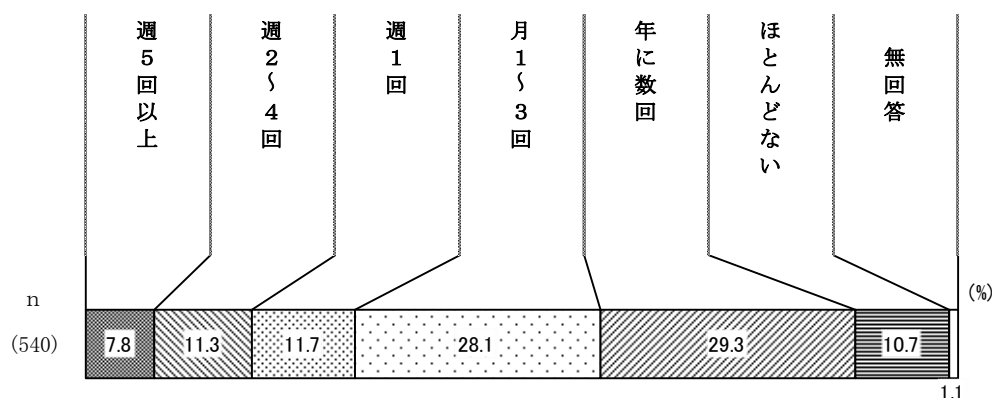


近所の方とお付き合いの程度についてたずねたところ、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(57.0%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(20.2%)、一方、「お付き合いはしていない」(17.6%)は1割台半ばを超えている。

② 友人・知人と会う頻度

問14 あなたは、友人・知人と会う頻度はどのくらいですか。(同居の親族は含みません)  
(1つに○)

<図表256> 友人・知人と会う頻度

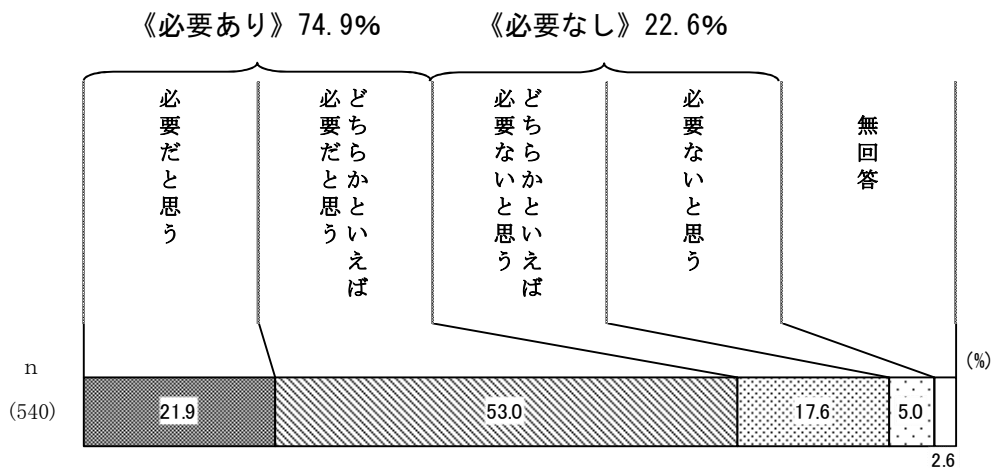


友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、「年に数回」(29.3%)が3割弱と最も高く、次いで、「月1〜3回」(28.1%)、「週1回」(11.7%)の順となっている。

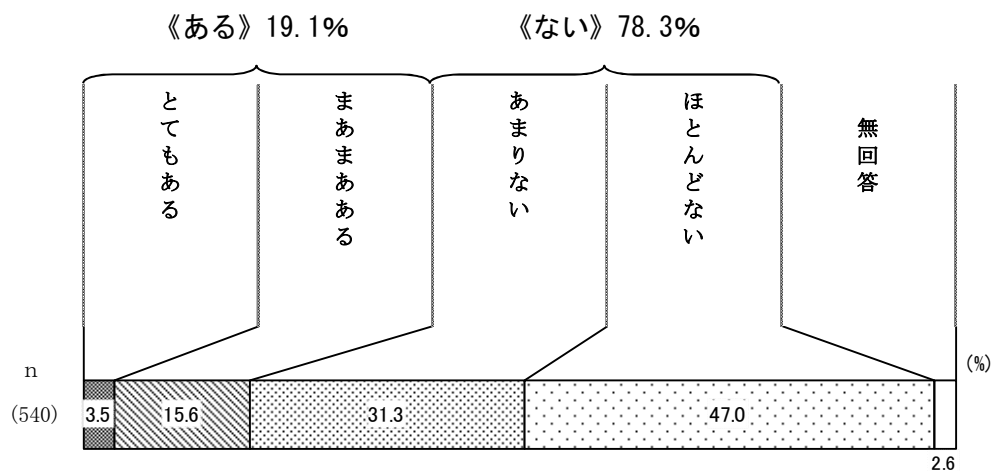
③多世代交流の必要性と頻度

問15 あなたのお住まいの地域で、あなたと違う世代の方と交流する機会についておたずねします。(それぞれ1つに○)

<図表257> (1) 多世代交流の必要性



<図表258> (2) 世代交流の頻度



多世代交流の必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」(21.9%)と「どちらかといえば必要だと思う」(53.0%)をあわせた《必要あり》は74.9%となっている。

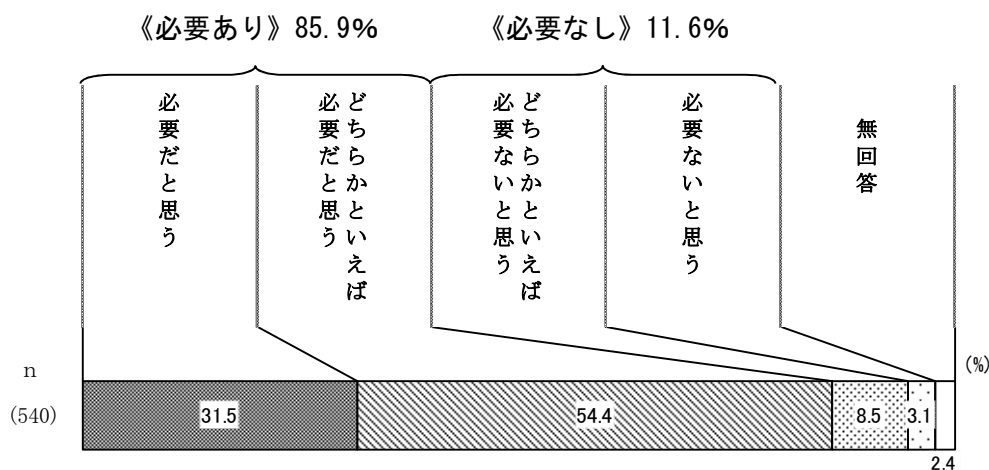
多世代交流の頻度についてたずねたところ、「とてもある」(3.5%)と「まあまあある」(15.6%)をあわせた《ある》は19.1%となっている。

(4) 地域での支え合いについて

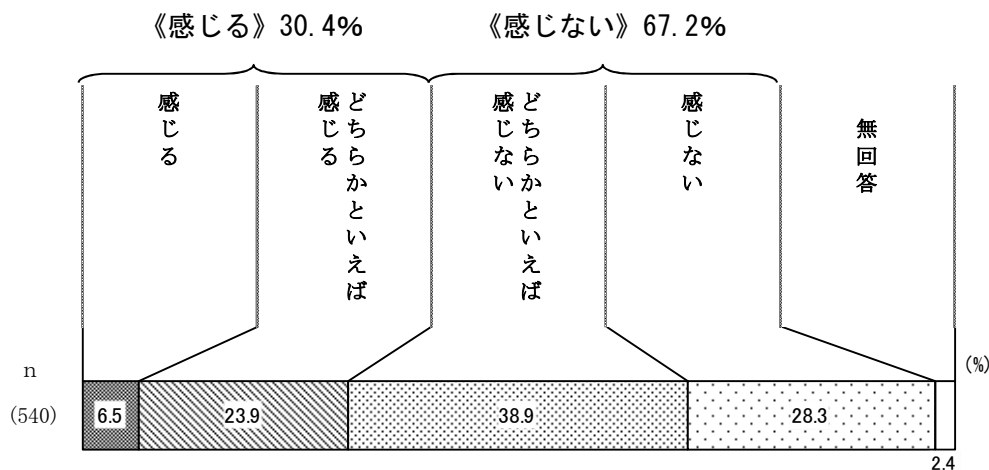
①地域のつながりの必要性と実感

問16 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（それぞれ1つに○）

<図表259> (1) 地域のつながりの必要性



<図表260> (2) 地域のつながりの実感



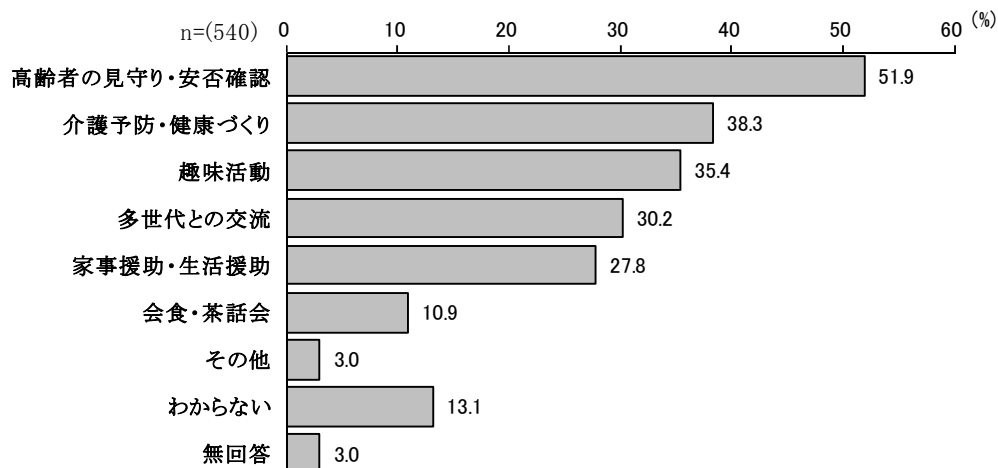
地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」(31.5%)と「どちらかといえば必要だと思う」(54.4%)をあわせた《必要あり》は85.9%となっている。

地域のつながりの実感についてたずねたところ、「感じる」(6.5%)と「どちらかといえば感じる」(23.9%)をあわせた《感じる》は30.4%となっている。

②あればよいと思う地域支え合い活動の内容

問17 あなたは、どのような住民主体の地域支え合い活動があればよいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表261> あればよいと思う住民主体の地域支え合い活動（複数回答）

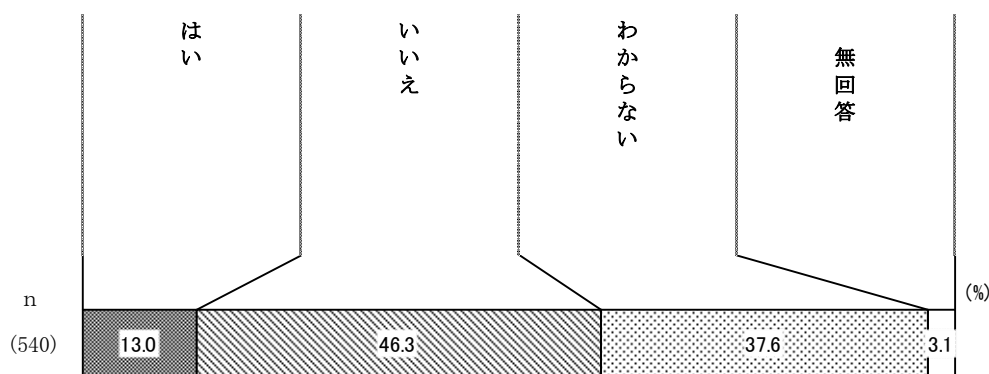


あればよいと思う地域支え合い活動の内容についてたずねたところ、「高齢者の見守り・安否確認」(51.9%)が5割強で最も高く、次いで、「介護予防・健康づくり」(38.3%)、「趣味活動」(35.4%)の順となっている。

③お世話役としての地域支え合い活動への参加意向

問18 あなたは地域支え合い活動に企画・運営側（お世話役）として参加してみたいですか。  
(1つに○)

<図表262> 企画・運営側（お世話役）としての地域支え合い活動への参加意向

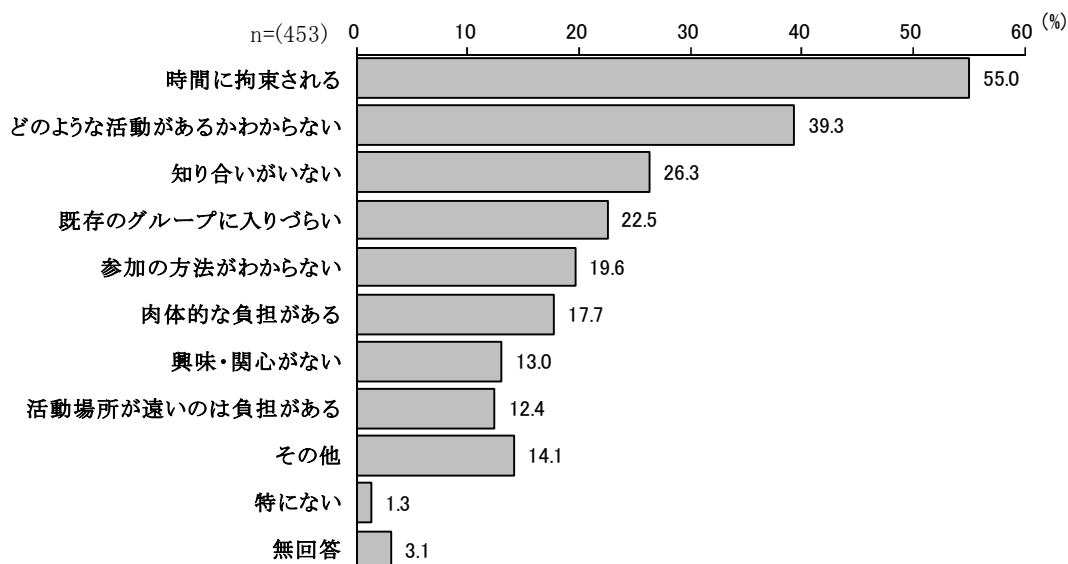


企画・運営側（お世話役）としての地域支え合い活動への参加意向についてたずねたところ、「いいえ」(46.3%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで、「わからない」(37.6%)、「はい」(13.0%)の順となっている。

## ④地域支え合い活動に参加する際の障壁

問18-1 ≪問18で「いいえ」または「わからない」を選んだ方のみお答えください≫  
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表263> 地域支え合い活動に参加する際の障壁（複数回答）



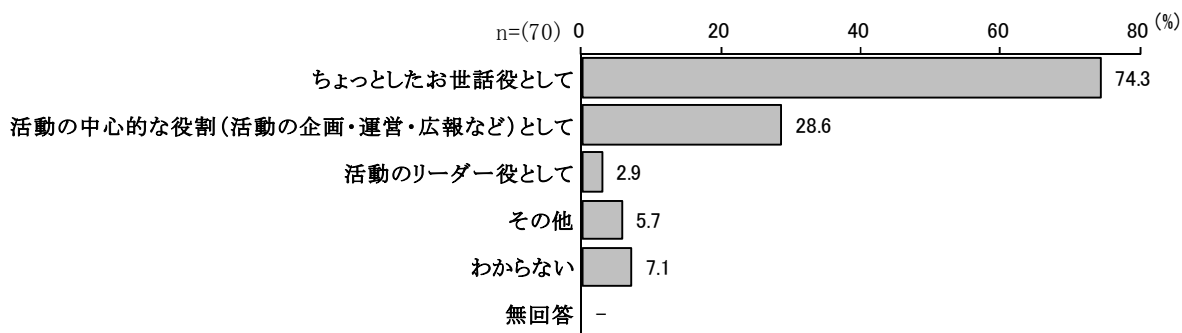
問18で「いいえ」または「わからない」と回答した人に、地域支え合い活動に参加する際の障壁についてたずねたところ、「時間に拘束される」(55.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「どのような活動があるかわからない」(39.3%)、「知り合いがいない」(26.3%)の順となっている。



⑤地域支え合い活動に参加する際の立場

問18-2 <<問18で「はい」を選んだ方のみお答えください>>  
 あなたはどのような立場で地域支え合い活動に参加してみたいですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表264> 地域支え合い活動に参加する際の立場 (複数回答)



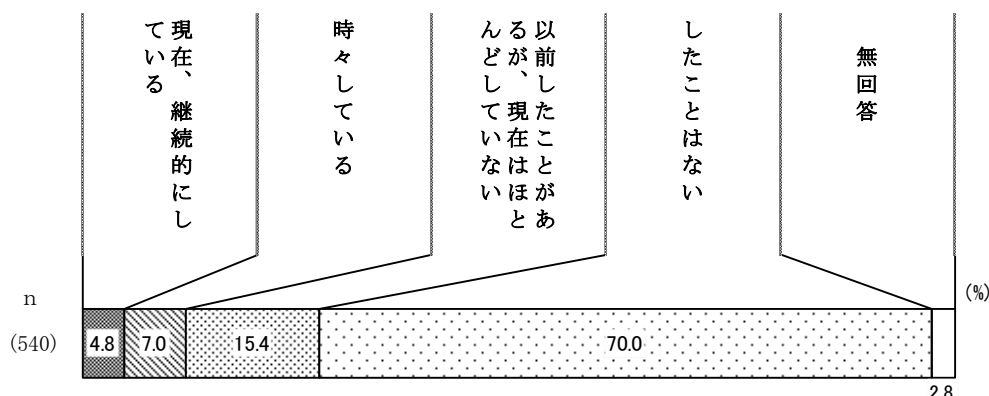
問18で「はい」と回答した人に、地域支え合い活動に参加する際の立場についてたずねたところ、「ちょっとしたお世話役として」(74.3%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで、「活動の中心的な役割(活動の企画・運営・広報など)として」(28.6%)、「活動のリーダー役として」(2.9%)の順となっている

(5) 支援を必要とする高齢者を支えるしくみづくりについて

①地域活動やボランティア活動等の状況

問19 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子ども会など、以下同様）やボランティア活動等をしていますか。（1つに○）

<図表265> 地域活動やボランティア活動等の状況



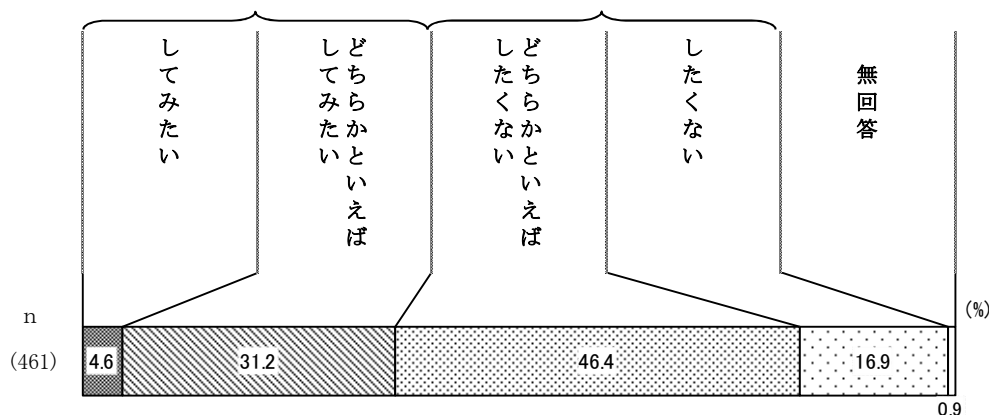
地域活動やボランティア活動等の状況についてたずねたところ、「したことはない」(70.0%)が7割と最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」(15.4%)、「時々している」(7.0%)の順となっている。

②今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

問19-1 <<問19で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」を選んだ方のみお答えください>>  
あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。  
(1つに○)

<図表266> 今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

《参加意向あり》35.8% 《参加意向なし》63.3%

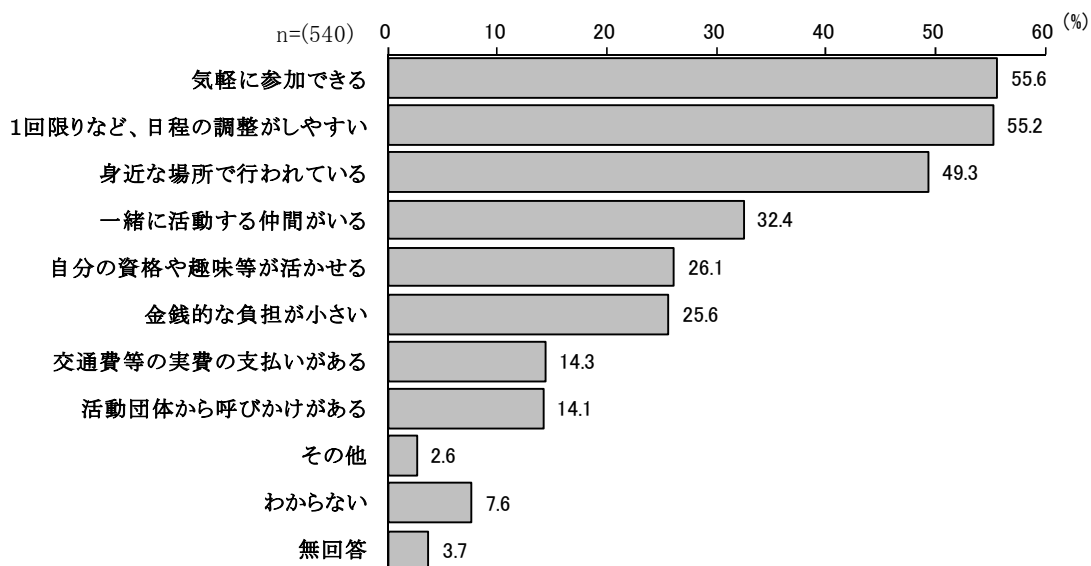


問19で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」と回答した人に今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向についてたずねたところ、「してみたい」(4.6%)と「どちらかといえばしてみたい」(31.2%)をあわせた《参加意向あり》は35.8%となっている。

③地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形

問20 あなたはどのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表267> 地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形 (複数回答)

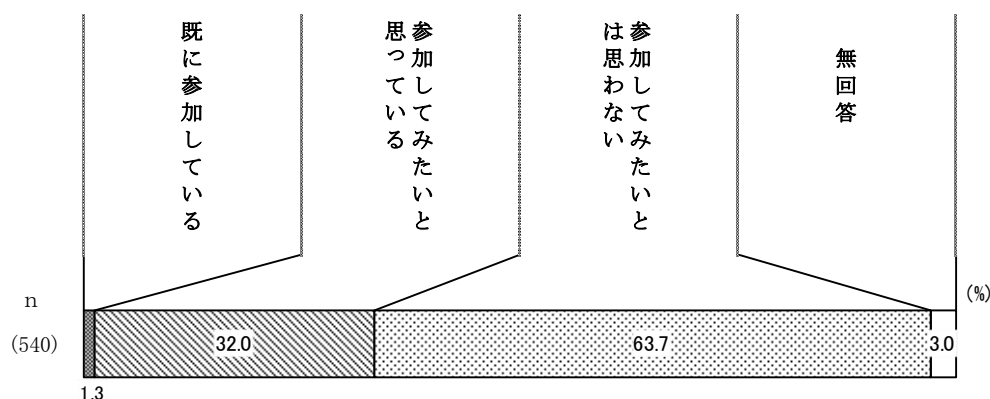


地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形についてたずねたところ、「気軽に参加できる」(55.6%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「1回限りなど、日程の調整がしやすい」(55.2%)、「身近な場所で行われている」(49.3%)の順となっている。

④高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向

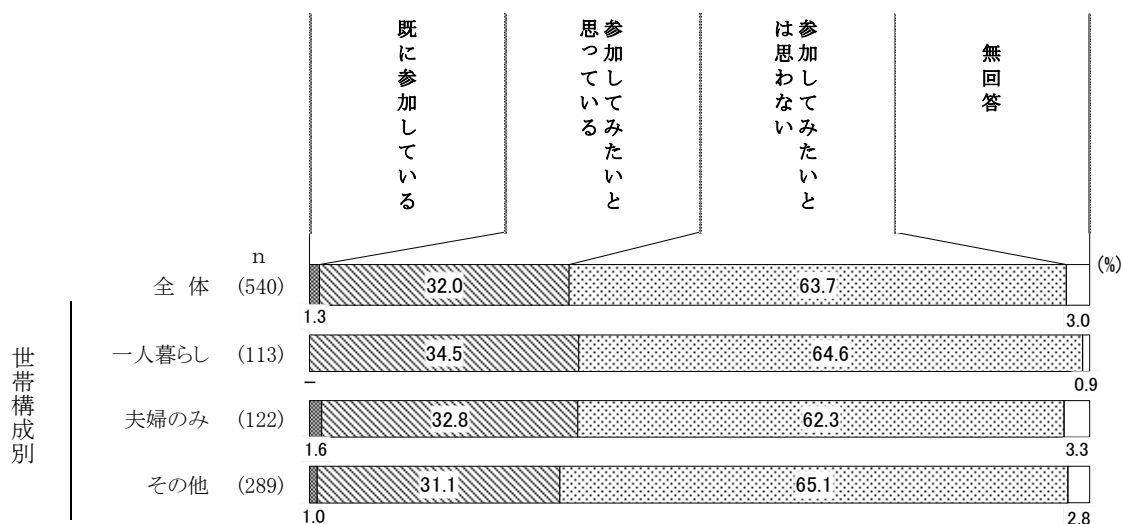
問21 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動に機会があれば参加してみたいですか。（1つに○）

<図表268> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向



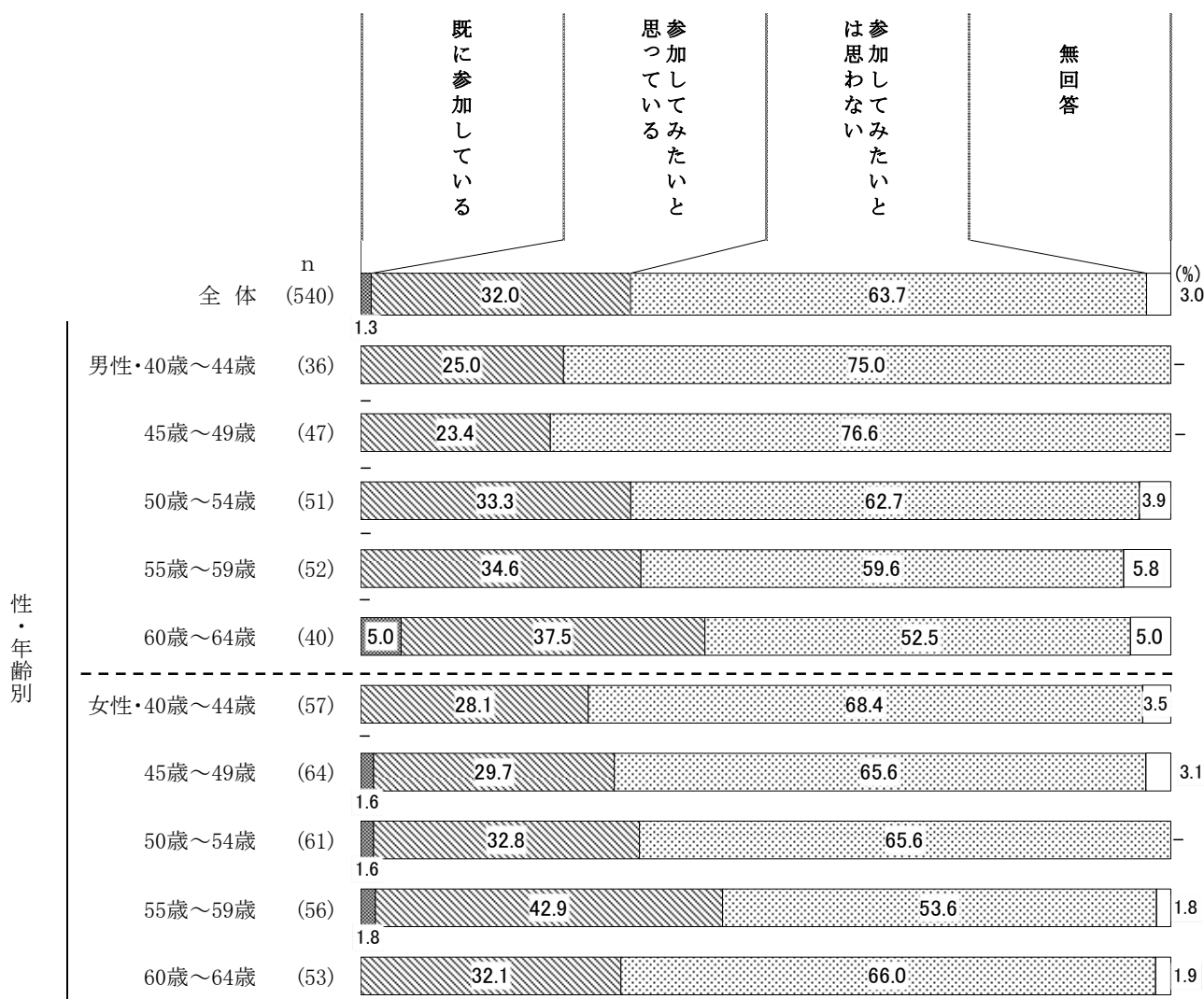
高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向についてたずねたところ、「参加してみたいと思わない」(63.7%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「参加してみたいと思っている」(32.0%)、「既に参加している」(1.3%)の順となっている。

<図表269> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向【世帯構成別(問4)】



世帯構成別にみると、世帯構成の違いによる、高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向の差はみられない。

<図表270> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動への参加意向【性・年齢別】

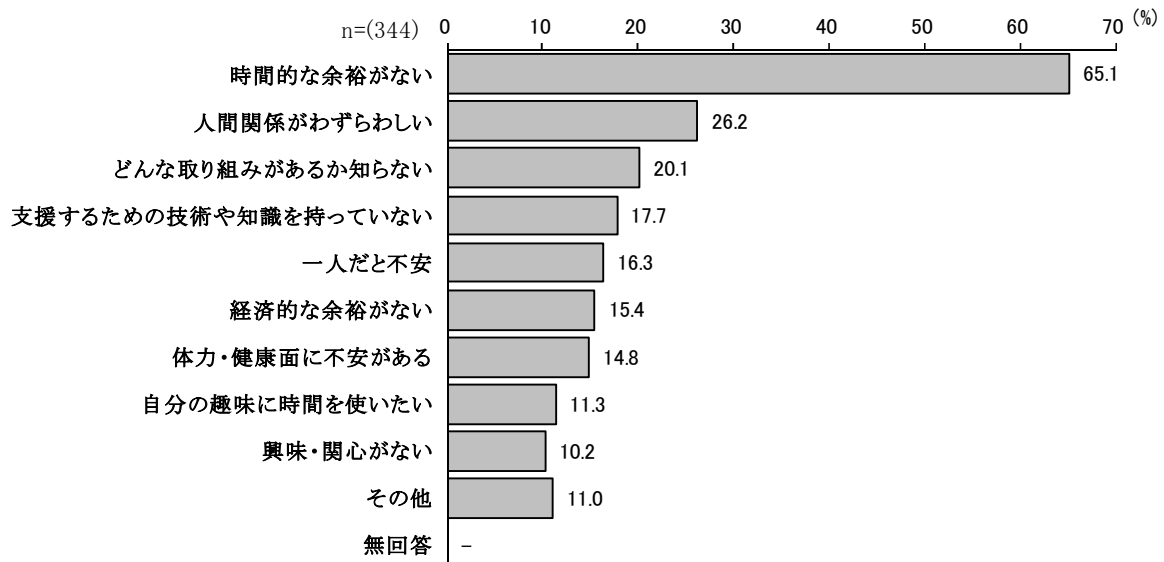


性・年齢別にみると、「参加してみたいと思っている」割合は、男性の場合、60代前半が高く、女性の場合、50代後半が高くなっている。

## ⑤高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動に参加したくない理由

問21-1 <<問21で「参加してみたいとは思わない」を選んだ方のみお答えください>>  
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表271> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動に参加したくない理由  
(複数回答)

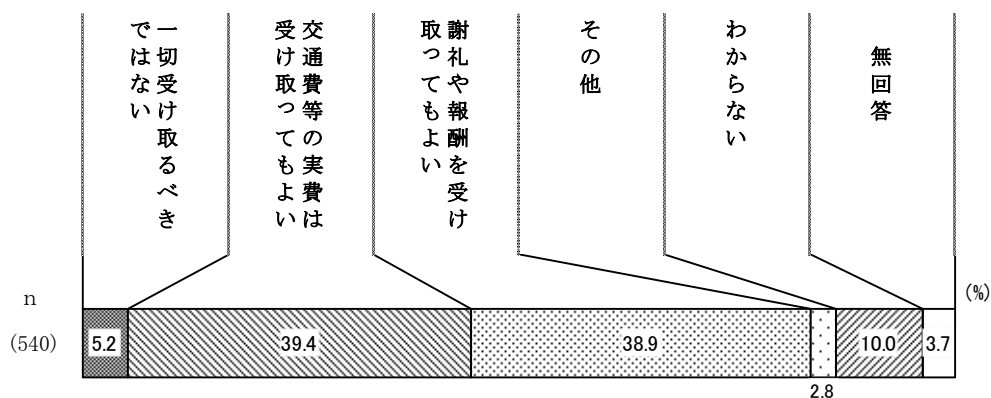


問21で「参加してみたいとは思わない」と回答した人に高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動に参加したくない理由についてたずねたところ、「時間的な余裕がない」(65.1%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「人間関係がわずらわしい」(26.2%)、「どんな取り組みがあるから知らない」(20.1%)の順となっている。「その他」では、仕事があるため、家族の介護のため、子育てのためといった内容があげられた。

⑥高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

問22 支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動をした人が、何らかの対価を受け取ることに  
ついて、あなたはどのように思いますか。（1つに○）

<図表272> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

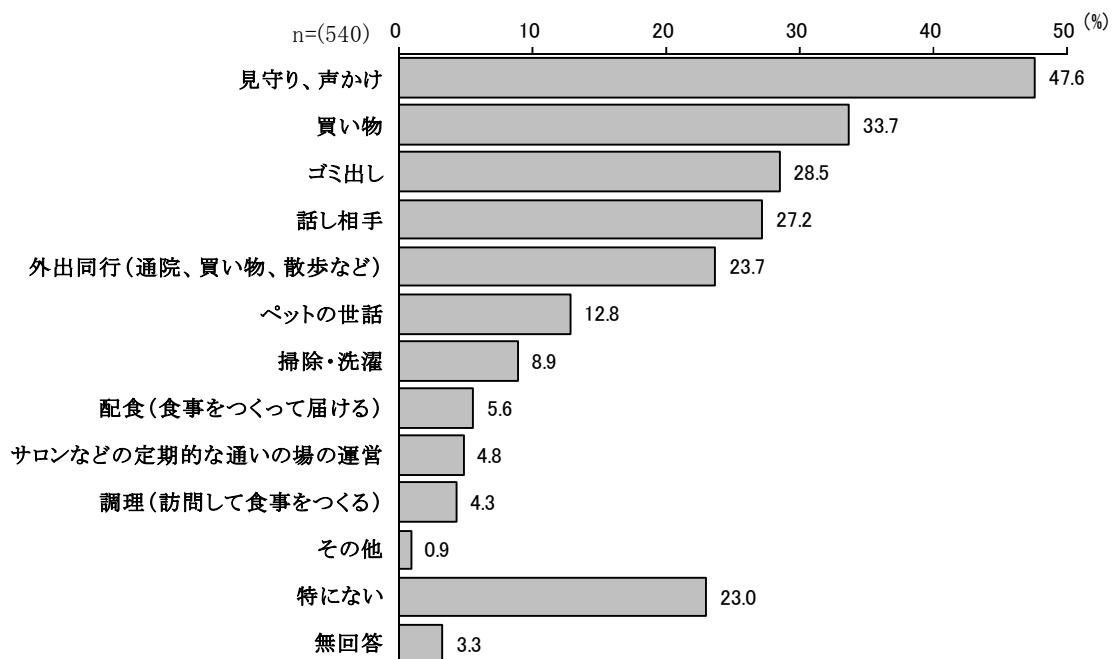


高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることに  
ついてたずねたところ、「交通費等の実費は受け取ってもよい」(39.4%)が4割弱で最も高く、  
次いで、「謝礼や報酬を受け取ってもよい」(38.9%)、「一切受け取るべきではない」(5.2%)の順と  
なっている。

## ⑦自分が担うことのできそうな支援・サービス

問23 支援を必要とする地域の高齢者の身の周りの世話や生活を支援するボランティア活動として、あなたが担うことのできそうな支援・サービス(現在支援しているものを含む)はありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表273> 自分が担うことのできそうな支援・サービス (複数回答)



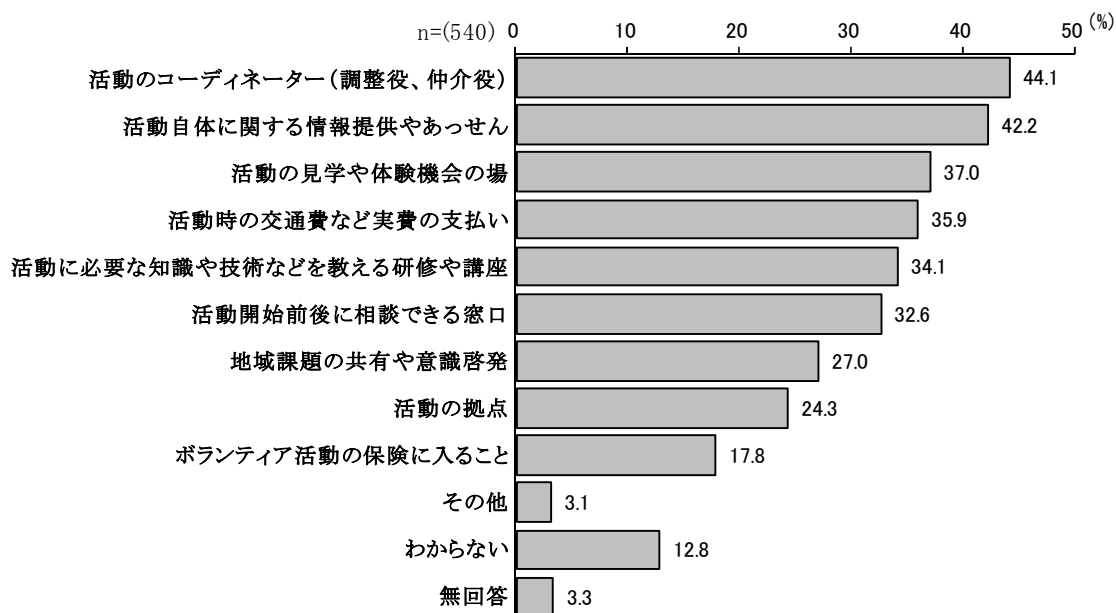
自分が担うことのできそうな支援・サービスについてたずねたところ、「見守り、声かけ」(47.6%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「買い物」(33.7%)、「ゴミ出し」(28.5%)の順となっている。



⑧高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために必要なサポート

問24 あなたは、支援を必要とする高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために、どのようなサポートが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表274> 高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために必要なサポート（複数回答）



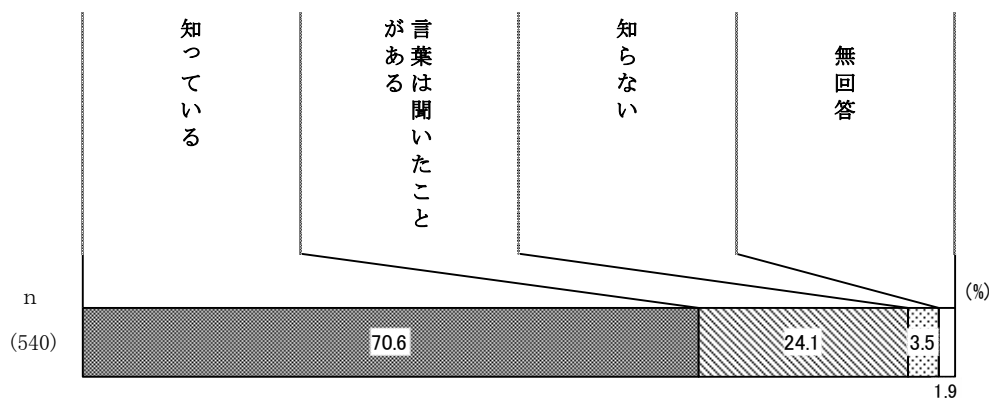
高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために必要なサポートについてたずねたところ、「活動のコーディネーター(調整役、仲介役)」(44.1%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「活動自体に関する情報提供やあっせん」(42.2%)、「活動の見学や体験機会の場」(37.0%)の順となっている。

(6) 若年性認知症について

①若年性認知症の認知度

問25 あなたは「若年性認知症」という病気をご存じですか。(1つに○)

<図表275> 若年性認知症の認知度

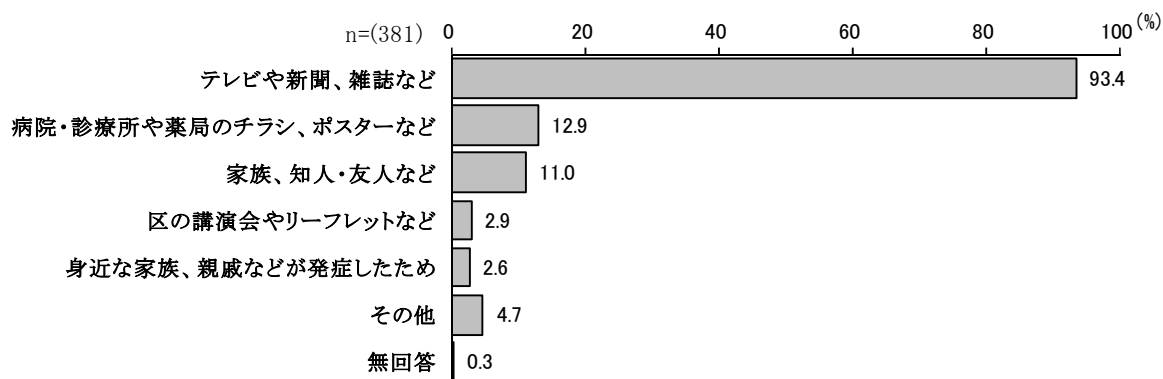


若年性認知症の認知度についてたずねたところ、「知っている」(70.6%)が約7割と最も高くなっている。

②若年性認知症を知ったきっかけ

問25-1 <<問25で「知っている」を選んだ方のみお答えください>>  
「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表276> 若年性認知症を知ったきっかけ(複数回答)

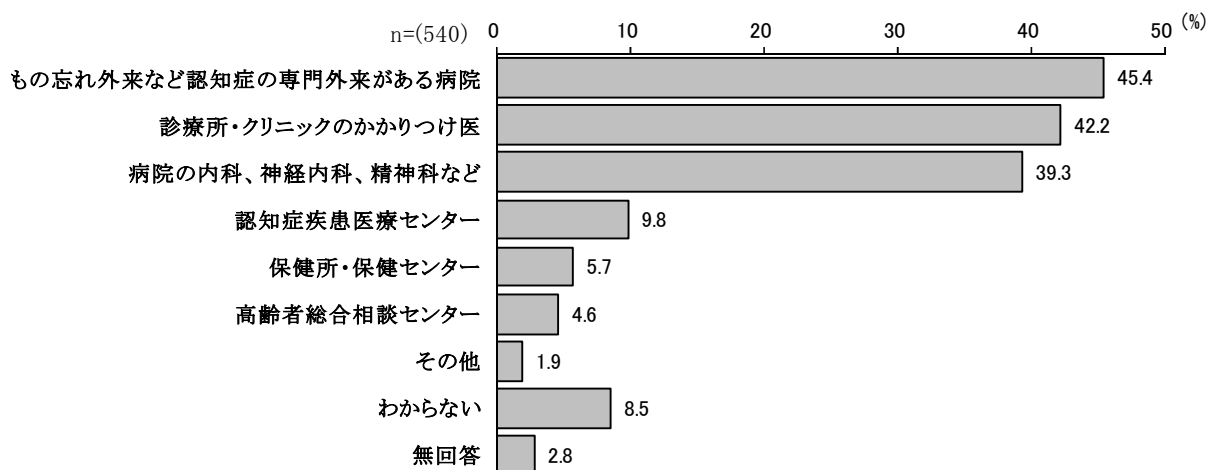


問25で若年性認知症を「知っている」と回答した人に、そのきっかけについてたずねたところ、「テレビや新聞、雑誌など」(93.4%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。

③もの忘れ等気になる症状があったときの相談先

問26 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表277> もの忘れ等気になる症状があったときの相談先 (複数回答)

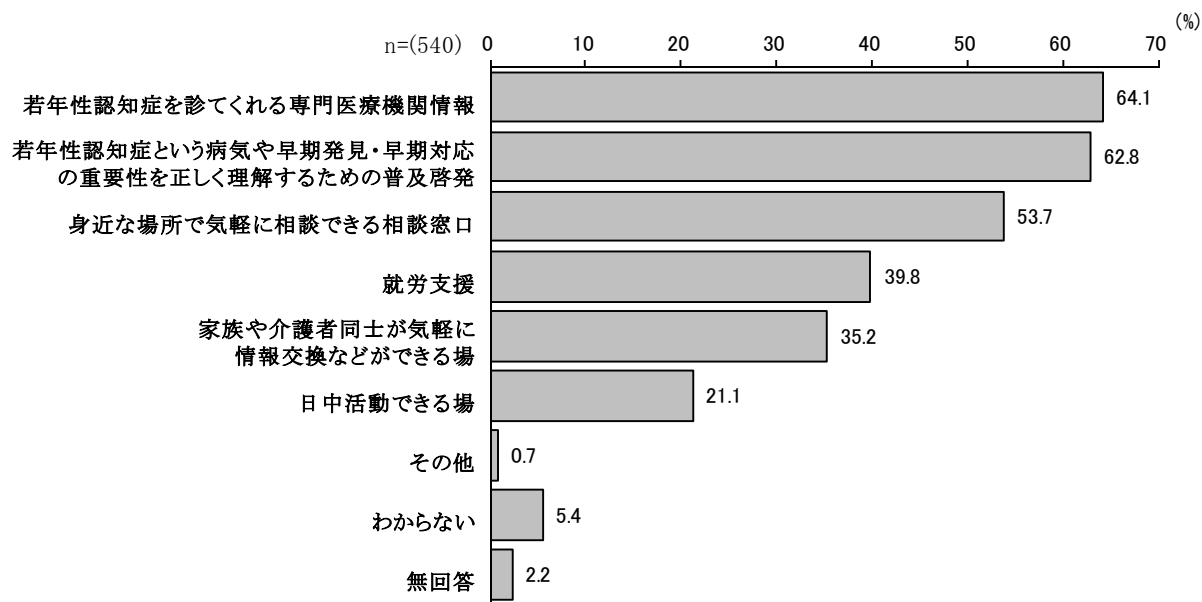


もの忘れ等気になる症状があったときの相談先についてたずねたところ、「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」(45.4%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「診療所・クリニックのかかりつけ医」(42.2%)、「病院の内科、神経内科、精神科など」(39.3%)の順となっている。

## ④若年性認知症に対して必要な支援

問27 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表278> 若年性認知症に対して必要な支援（複数回答）



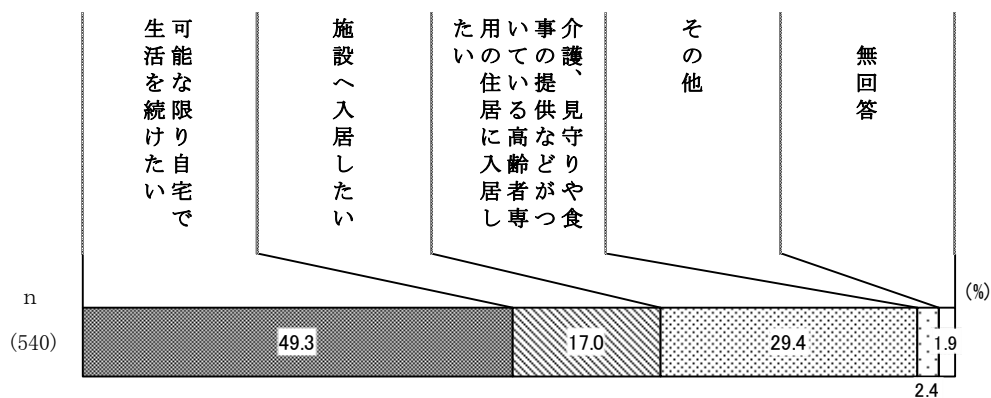
若年性認知症に対して必要な支援についてたずねたところ、「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」（64.1%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」（62.8%）、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」（53.7%）の順となっている。

(7) 在宅療養等について

①介護が必要になった場合の生活場所

問28 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。  
(1つに○)

<図表279> 介護が必要になった場合の生活場所

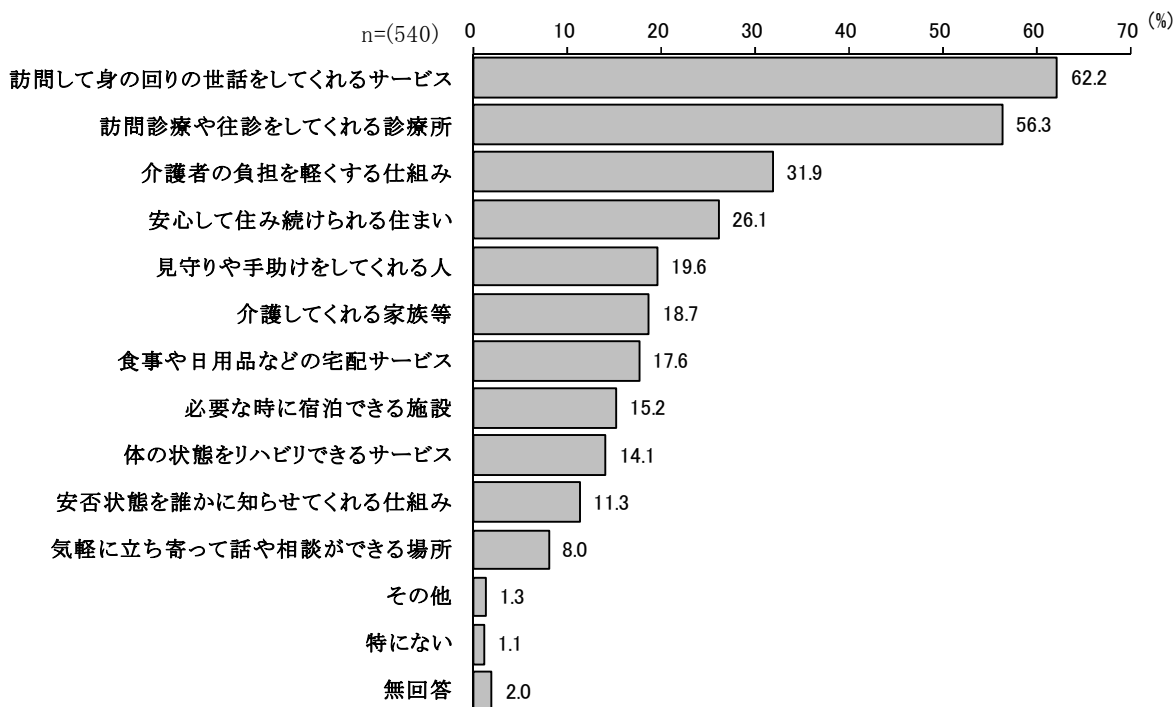


介護が必要になった場合の生活場所についてたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(49.3%)が5割弱となっている。

②高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問29 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに〇)

<図表280> 高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの(複数回答)

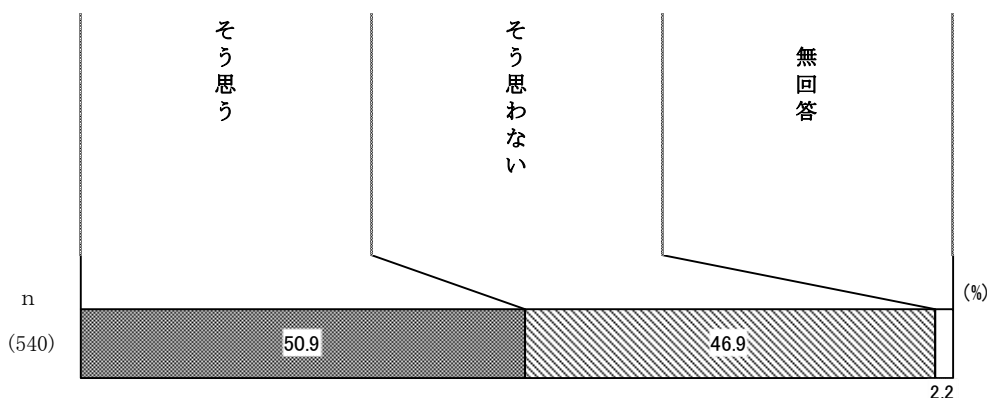


高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものについてたずねたところ、「訪問して身の回りの世話をしてくれるサービス」(62.2%)が6割強と最も高く、次いで、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(56.3%)、「介護者の負担を軽くする仕組み」(31.9%)の順となっている。

③在宅療養の意向

問30 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思いますか。(1つに〇)

<図表281> 在宅療養の意向

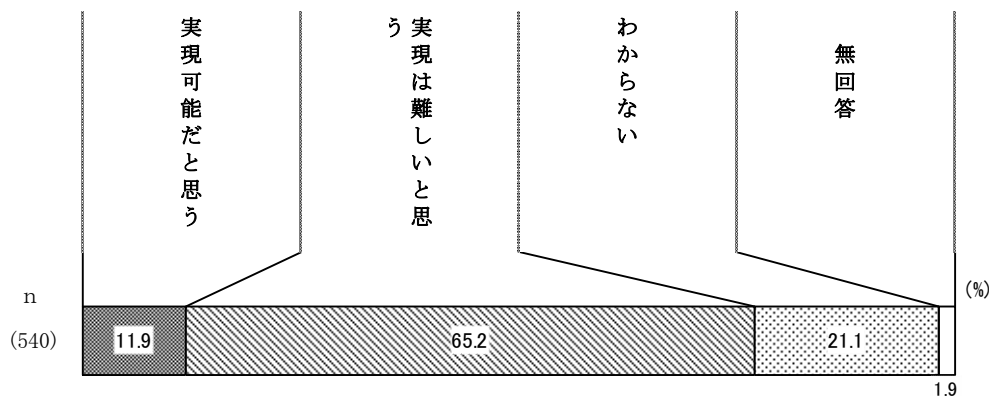


脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合の在宅療養の意向についてたずねたところ、「そう思う」(50.9%)は約5割となっている。

④在宅療養の可能性

問31 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

<図表282> 在宅療養の可能性

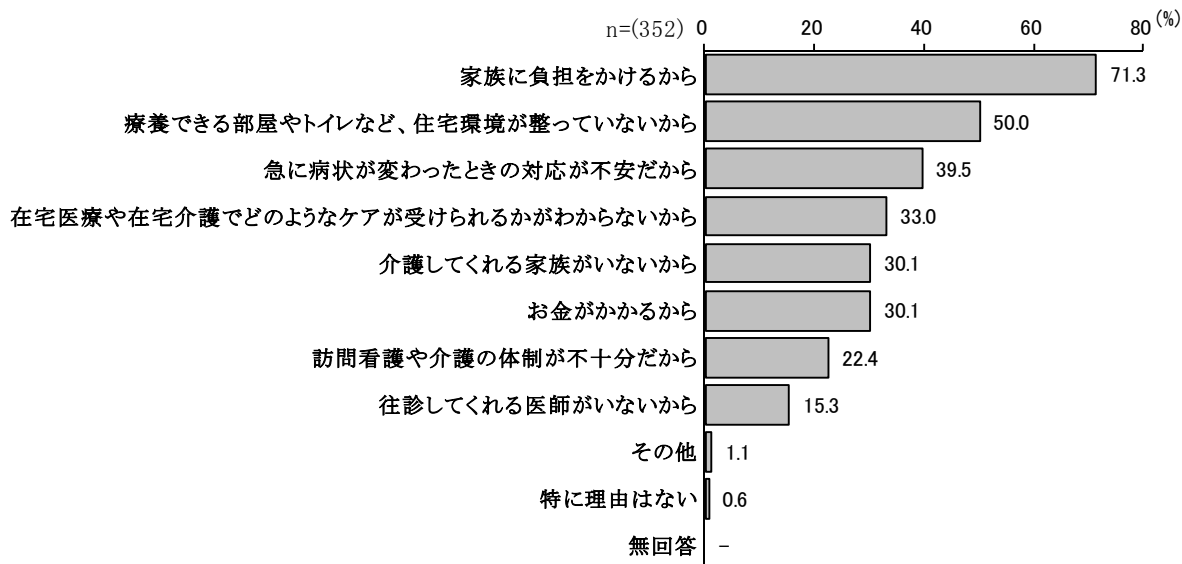


自宅での療養の可能性についてたずねたところ、「実現は難しいと思う」(65.2%)は6割台半ばとなっている。

⑤在宅療養が難しいと思う理由

問31-1 <<問31で「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください>>  
 実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表283> 在宅療養が難しいと思う理由(複数回答)



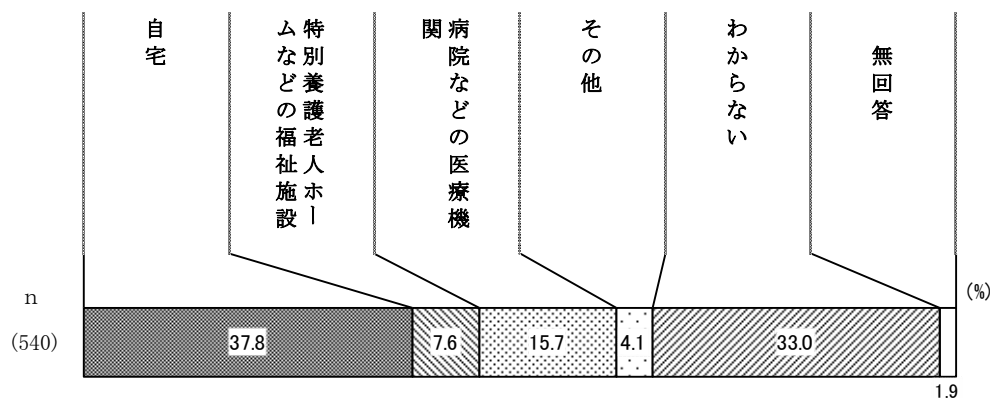
問31で「実現は難しいと思う」と回答した人に、在宅療養が難しいと思う理由についてたずねたところ、「家族に負担をかけるから」(71.3%)が7割強で最も高く、次いで、「療養できる部屋やトイレなど、住宅環境が整っていないから」(50.0%)、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(39.5%)の順となっている。

(8) 人生の最終段階における医療について

① 最期を迎えたい場所

問32 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表284> 最期を迎えたい場所

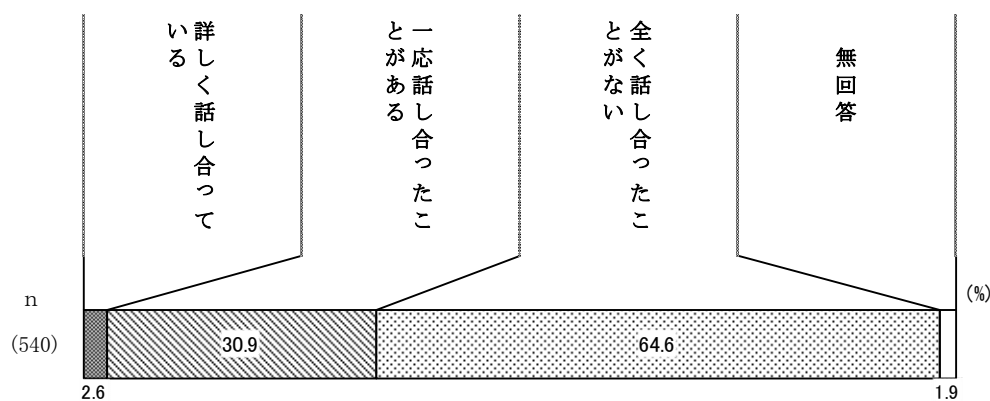


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(37.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「わからない」(33.0%)、「病院などの医療機関」(15.7%)の順となっている。

② ご家族と話し合った経験

問33 あなたは、人生の最終段階において受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表285> ご家族と話し合った経験



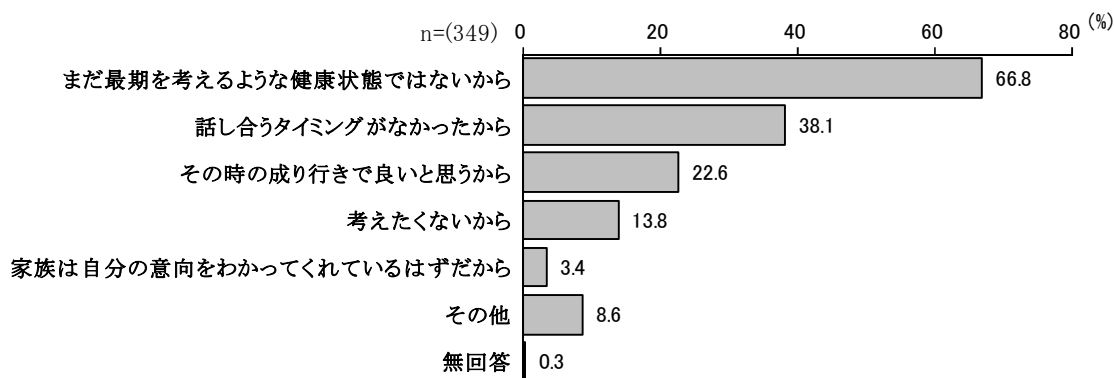
人生の最終段階において受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族と話し合った経験をたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(64.6%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「一応話し合ったことがある」(30.9%)となっている。



③全く話し合ったことがない理由

問33-1 ≪問33で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください≫  
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表286> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

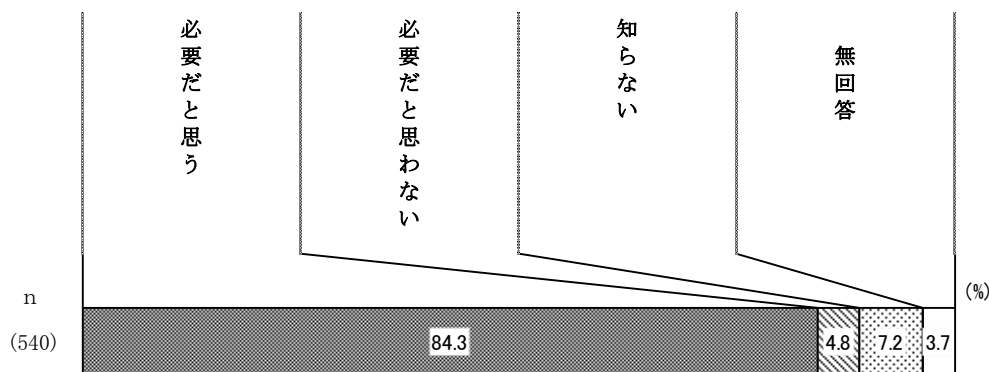


問33で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由についてたずねたところ、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(66.8%)が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「話し合うタイミングがなかったから」(38.1%)、「その時の成り行きで良いと思うから」(22.6%)の順となっている。

④エンディングノートなどの作成

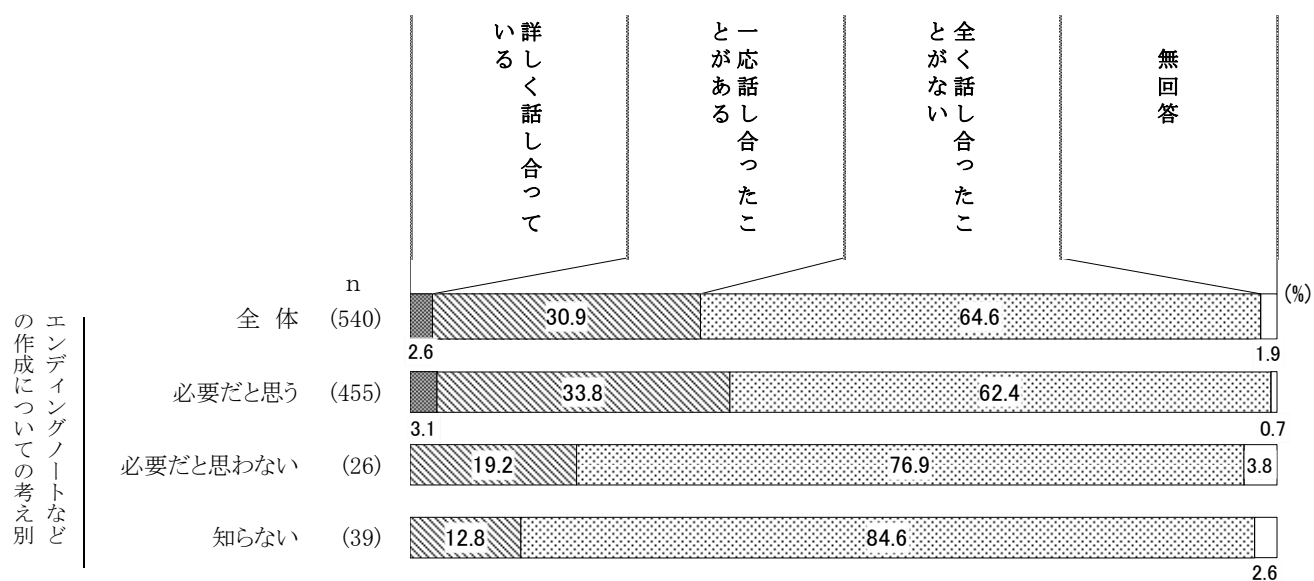
問34 あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面(エンディングノートなど)をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

<図表287> エンディングノートなどの作成



エンディングノートなどの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」(84.3%)が8割台半ば近くとなっている。

<図表288> 人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験  
【エンディングノートなどの作成についての考え別（問33）】



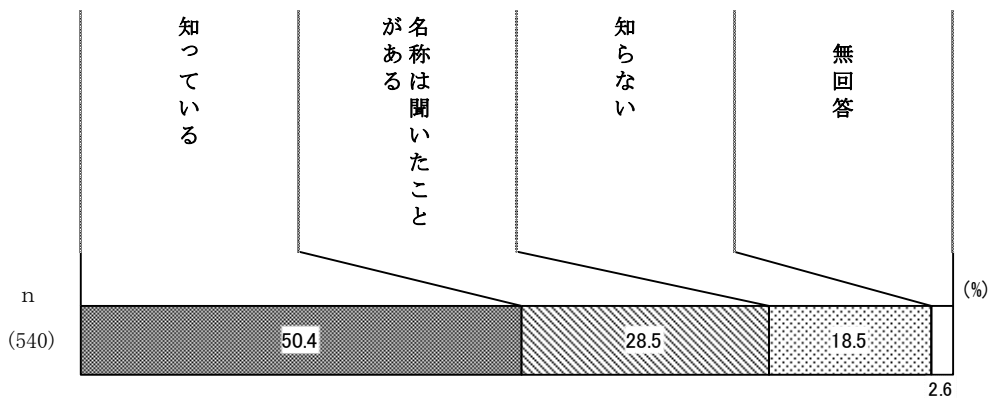
人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験と、エンディングノートなどの作成についての考え別にみると、「必要だと思う」人のうち「全く話し合ったことがない」(62.4%)が6割強となっている。

(9) 緩和ケアについて

①「緩和ケア」の認知度

問35 あなたは、「緩和ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表289> 「緩和ケア」の認知度

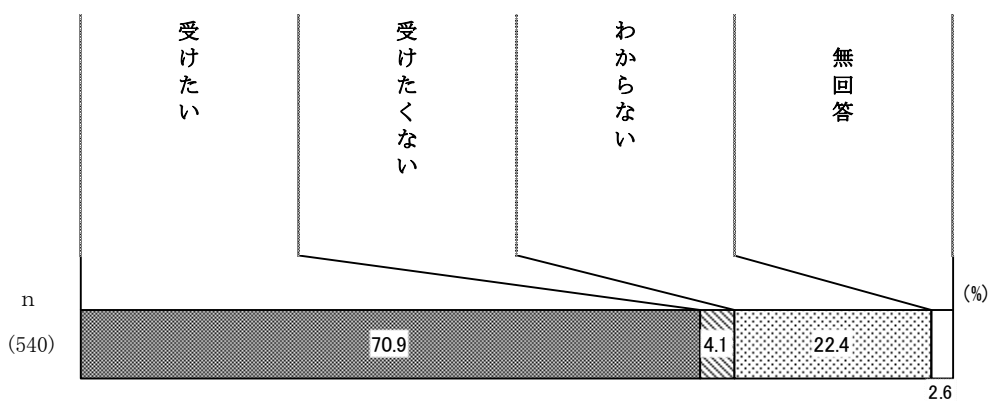


「緩和ケア」の認知度についてたずねたところ、「知っている」(50.4%)は約5割、「名称は聞いたことがある」(28.5%)は3割近くとなっている。

②治療と併せた早期からの「緩和ケア」の意向

問36 あなたは、重い病と診断された場合、治療と併せて、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表290> 治療と併せた早期からの「緩和ケア」の意向

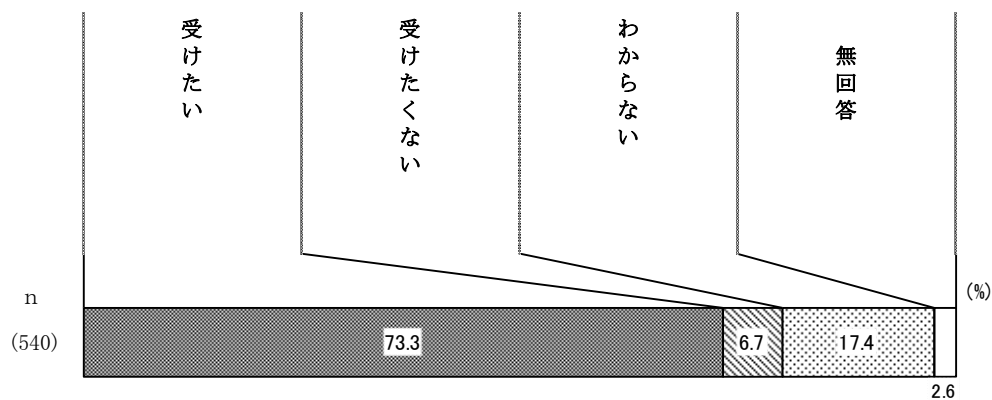


早期からの「緩和ケア」の意向についてたずねたところ、「受けたい」(70.9%)は約7割となっている。

③回復が期待できない場合の「緩和ケア」の意向

問37 あなたは、重い病で、回復が期待できない場合、痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表291> 回復が期待できない場合の「緩和ケア」の意向



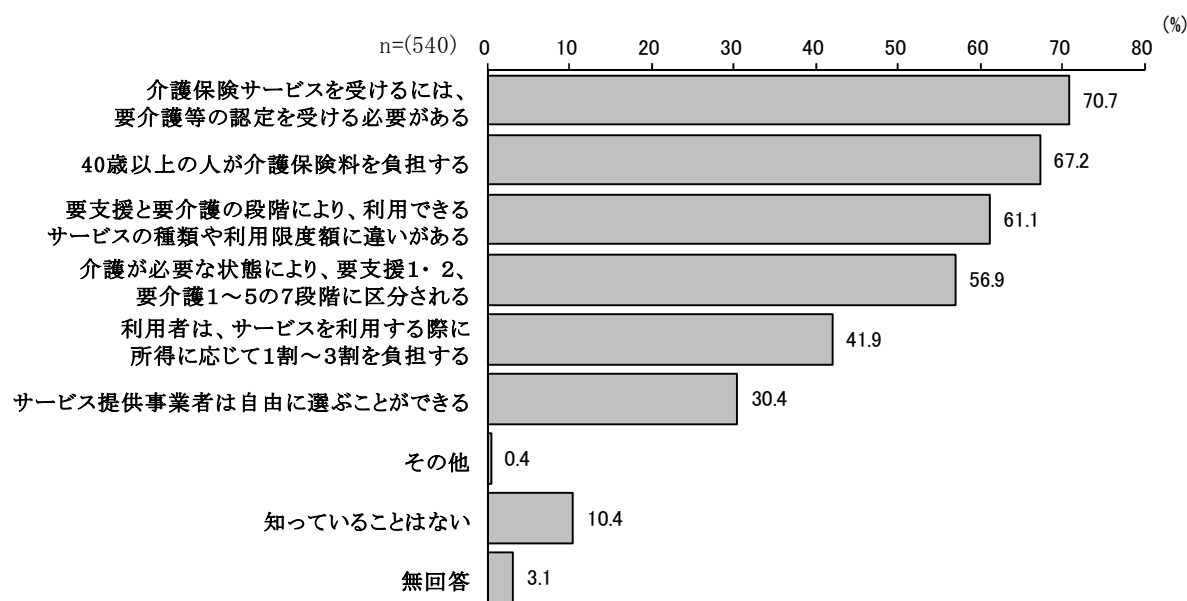
回復が期待できない場合の「緩和ケア」の意向についてたずねたところ、「受けない」(73.3%)は7割台半ば近くとなっている。

(10) 介護保険制度について

①介護保険制度の周知状況

問38 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことをご存じですか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表292> 介護保険制度の周知状況 (複数回答)

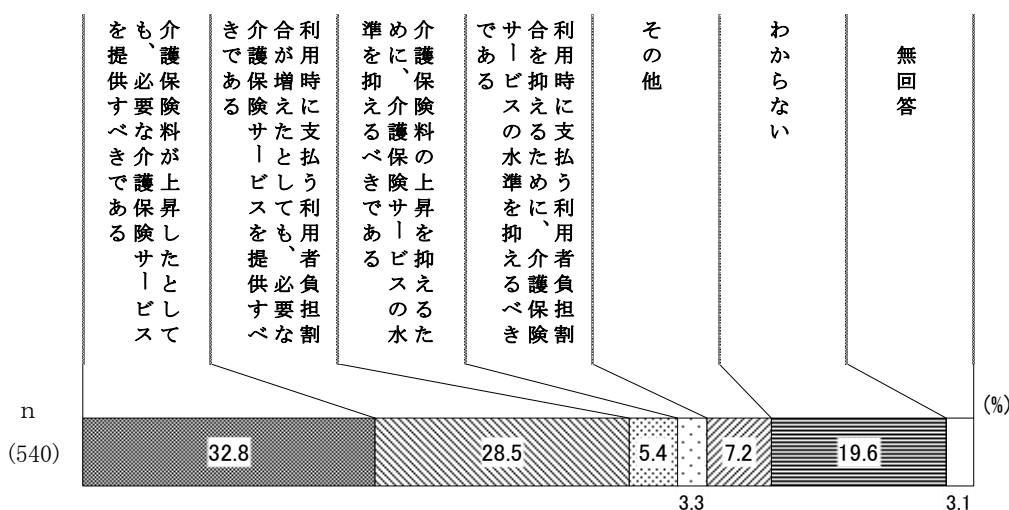


介護保険制度の周知状況についてたずねたところ、「介護保険サービスを受けるには、要介護等の認定を受ける必要がある」(70.7%)が約7割で最も高く、次いで、「40歳以上の方が介護保険料を負担する」(67.2%)、「要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある」(61.1%)の順となっている。

②介護保険のサービスと費用負担

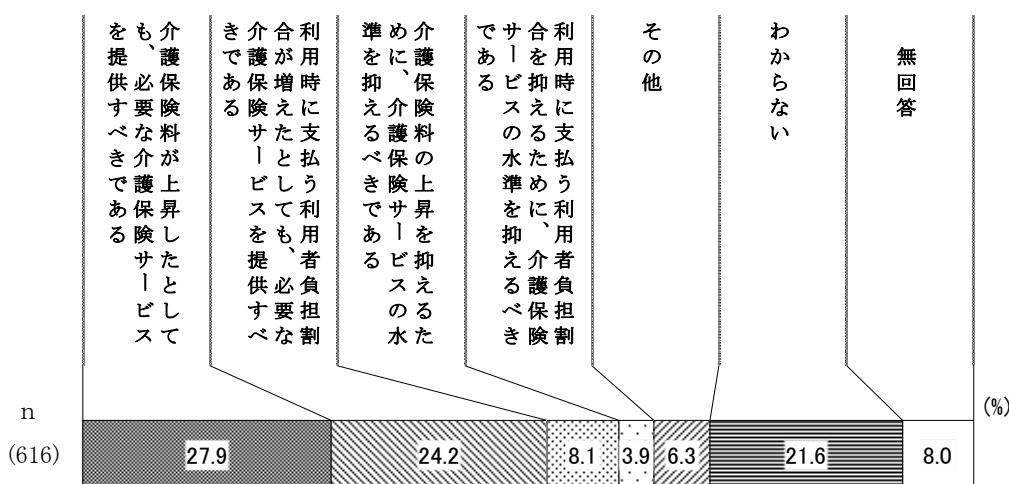
問39 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表293> 介護保険のサービスと費用負担



介護保険のサービスと費用負担についてたずねたところ、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(32.8%)が3割強と最も高く、次いで、「利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(28.5%)の順となっている。

【参考】<図表294> 介護保険のサービスと費用負担(平成28年度調査)

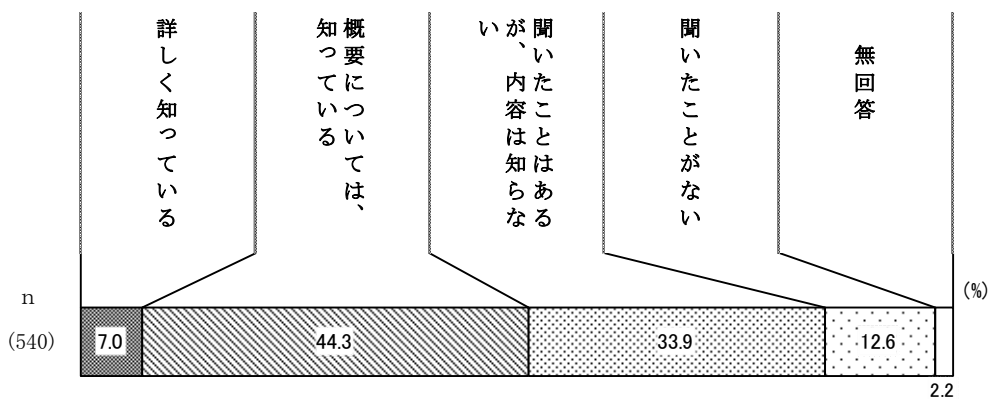


(11) 権利擁護について

① 成年後見制度の認知度

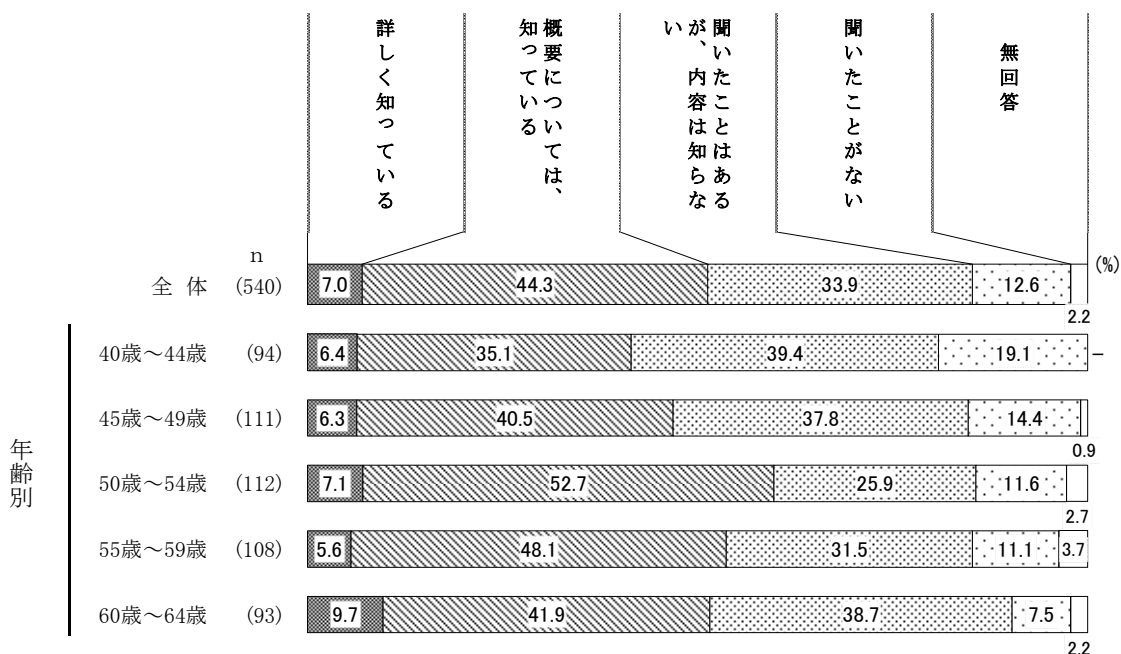
問40 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

<図表295> 成年後見制度の認知度



成年後見制度の認知度についてたずねたところ、「概要については、知っている」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(33.9%)、「詳しく知っている」(7.0%)の順となっている。

<図表296> 成年後見制度の認知度【年齢別】

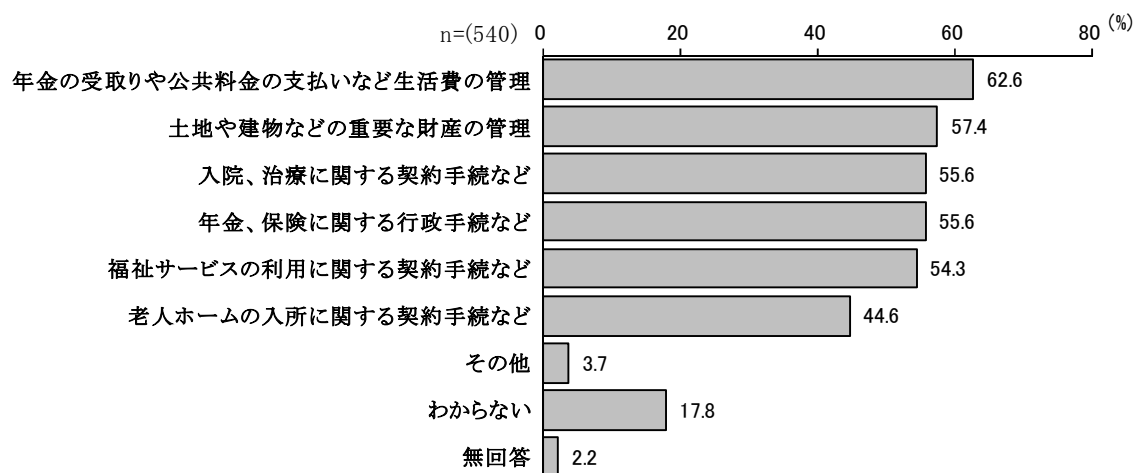


年齢別にみると、「聞いたことがない」の割合は、年齢が高くなるにつれて低くなっている。

## ②成年後見制度に期待する役割

問41 あなたが成年後見制度に期待する役割は何ですか。  
すでに利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表297> 成年後見制度に期待する役割 (複数回答)



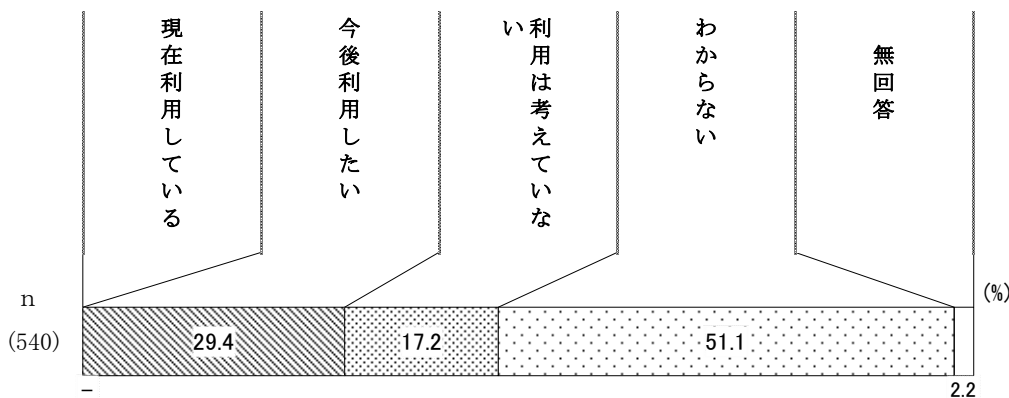
成年後見制度に期待する役割についてたずねたところ、「年金の受取りや公共料金の支払いなど生活費の管理」(62.6%)が6割強と最も高く、次いで、「土地や建物などの重要な財産の管理」(57.4%)、「入院、治療に関する契約手続など」「年金、保険に関する行政手続など」(ともに55.6%)の順となっている。



③成年後見制度の利用意向

問42 あなたは、あなた自身が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表298> 成年後見制度の利用意向

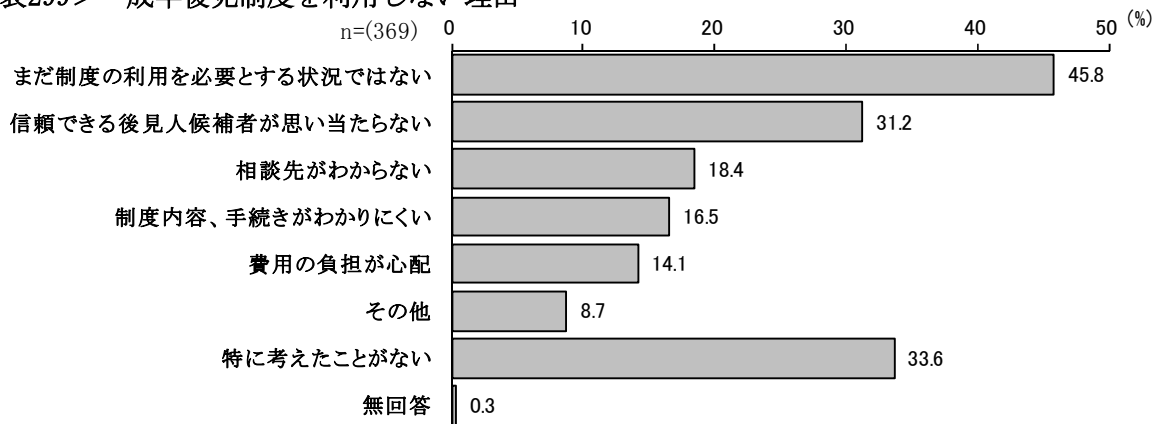


成年後見制度の利用意向についてたずねたところ、「わからない」(51.1%)が5割強で最も高く、次いで、「今後利用したい」(29.4%)が3割弱、「利用は考えていない」(17.2%)が約3割の順となっている。

④成年後見制度を利用しない理由

問42-1 <<問42で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>  
あなた自身が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表299> 成年後見制度を利用しない理由

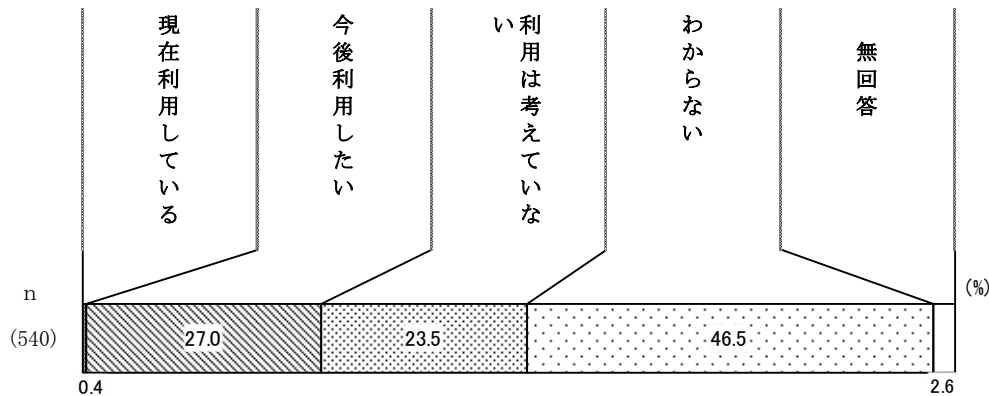


問42で「利用は考えていない」または「わからない」と回答した人にその理由についてたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(31.2%)、「相談先がわからない」(18.4%)の順となっている。

⑤家族・親族の成年後見制度の利用意向

問43 あなたは、家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表300> 家族・親族の成年後見制度の利用意向



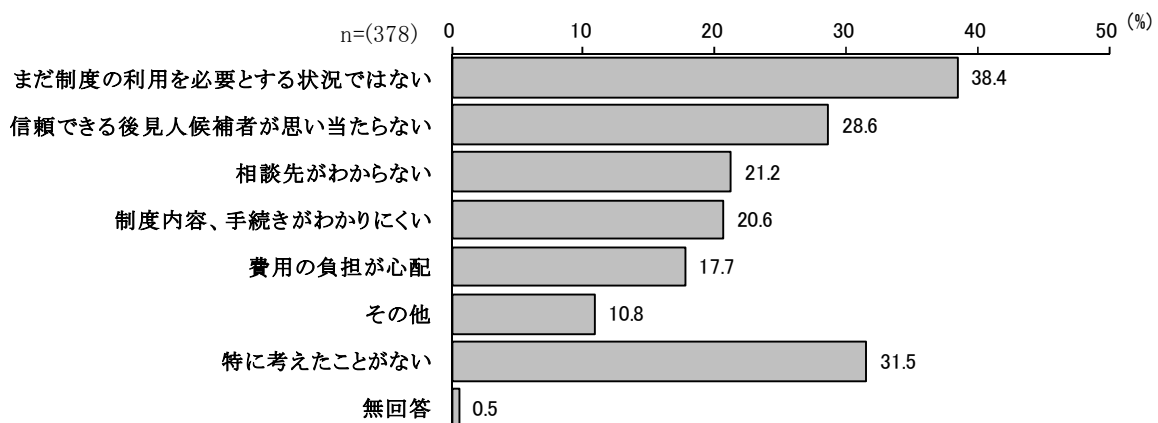
家族・親族の成年後見制度の利用意向についてたずねたところ、「わからない」(46.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「今後利用したい」(27.0%)、「利用は考えていない」(23.5%)の順となっている。

⑥家族・親族の成年後見制度を利用しない理由

問43-1 <<問43で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>

家族・親族が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表301> 家族・親族の成年後見制度を利用しない理由



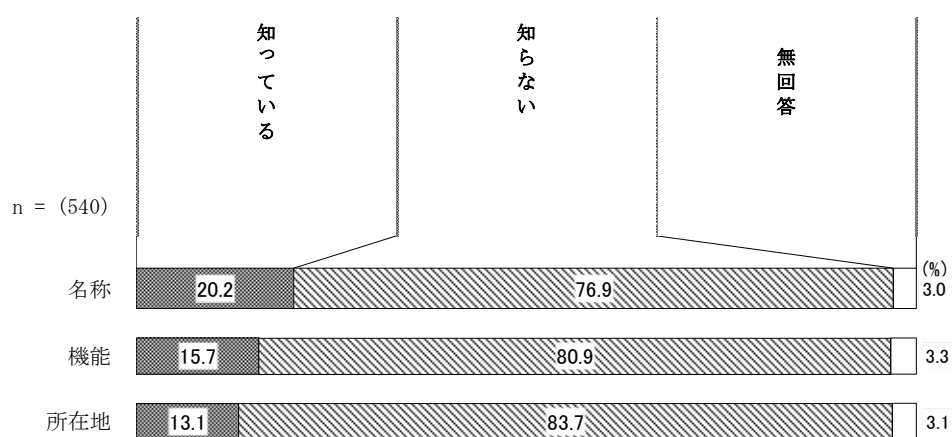
問43で「利用は考えていない」または「わからない」と回答した人にその理由についてたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(38.4%)が4割近くで最も高く、次いで、信頼できる後見人候補者が思い当たらない(28.6%)、「相談先がわからない」(21.2%)の順となっている。

(12) 健康・福祉サービスの相談窓口について

① 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

問44 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)  
 問45 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)  
 問46 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表302> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度



高齢者総合相談センターの名称の認知度についてたずねたところ、「知っている」(20.2%)は約2割となっている。

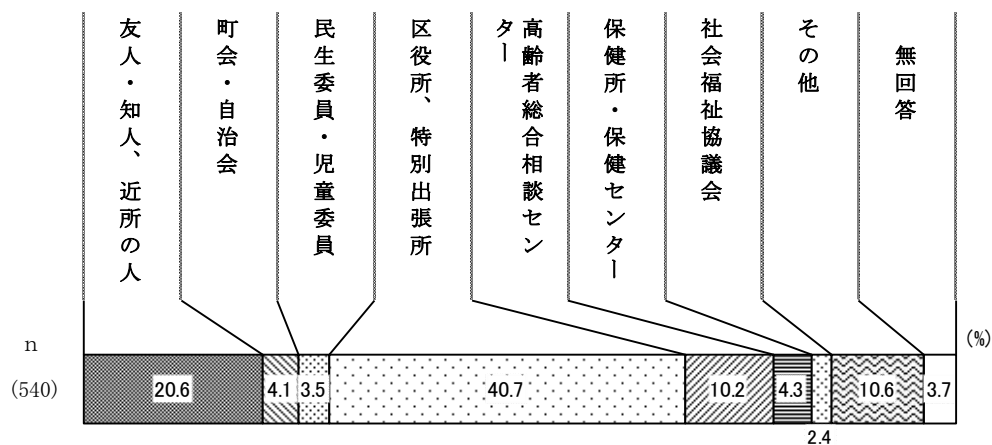
機能の認知度についてたずねたところ、「知っている」(15.7%)は1割台半ばとなっている。

所在地の認知度についてたずねたところ、「知っている」(13.1%)は1割台半ば近くとなっている。

②地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先

問47 あなたは、地域で困っている高齢者を見かけたり、異変に気付いたとき、どちらに相談しますか。(1つに〇)

<図表303> 地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先



地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先についてたずねたところ、「区役所、特別出張所」(40.7%)が約4割と最も高く、次いで、「友人・知人、近所の人」(20.6%)、「高齢者総合相談センター」(10.2%)の順となっている。

③高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問48 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についてたずねたところ、140人からの回答があった。回答の多かった内容は、「施策全般について」「情報提供・相談について」「介護保険・サービスについて」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

施策全般について	情報提供・相談について	介護保険・サービスについて	アンケートについて	人材・ボランティアについて	就労・地域活動について	施設等について	家族等介護者について	医療・保健について	住まいについて	健康・介護予防について	その他
36	24	24	10	9	8	7	6	4	2	2	8

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【施策全般について】

- ・今後様々なサービスを受けなくては暮らせない高齢者が急速に増加することに、漠然とした不安を感じる。
- ・高齢者福祉には金がかかるが、しっかり予算措置をしてとり組んでもらいたい。

【情報提供・相談について】

- ・地域の区民センターなどで、定期的に高齢者の保健と福祉に関するセミナーなどを開催して欲しい。
- ・自分で調べてするのでなく、ある年齢になったらこのような制度があると区から連絡して欲しい。

【介護保険・サービスについて】

- ・介護認定を受ける際の手続きや期間の簡略化に期待。申請して認定が下りるまでの期間で悪化してしまったりする。
- ・介護士の地位、収入を向上させて、質の高い安心して任せられる介護制度のしくみの構築を望みます。

【アンケートについて】

- ・必要にならなければ知識を得ることもない。つい後回しにしてしまいがちな内容であると思う。自分に気付かされるアンケートでした。
- ・健康状態も悪くないのであまり深く介護の備えについて考えておりませんでした。今日のアンケートをきっかけに、家族とも少しずつ話し合ってみたいと思います。

【人材・ボランティアについて】

- ・地域の支え合いやボランティアを考えたときには、現実的に時間と金銭的、精神的な負担が極力少ないことが必要な条件になってくると思います。

【就労・地域活動について】

- ・高齢者との交流を仕事などをリタイヤした準高齢者が世話ができると良いと思う。そういったサイクルが生まれると良いと思う。

【施設等について】

- ・高額ではなく、安心して入居できる施設を設けていただきたい。

【家族等介護者について】

- ・高齢者の自立支援と共に介護家族の支援も必要かと思えます。

【医療・保健について】

- ・エンディングノートの作成が一般的になるように、何らかの働きかけをした方がよいのではないかな。望まない延命により医療費が増えるのを抑えるため。

【住まいについて】

- ・高齢の一人世帯の人間が家を借りやすくするとか、区で買い上げ・借り上げの集合住宅をそういった人たちに貸すとか、そういったことも考えていただければありがたいと思いました。

【健康・介護予防について】

- ・自分の健康は自らが守るという観点から、スポーツ、ランニング、散歩や歩くことを推奨。